



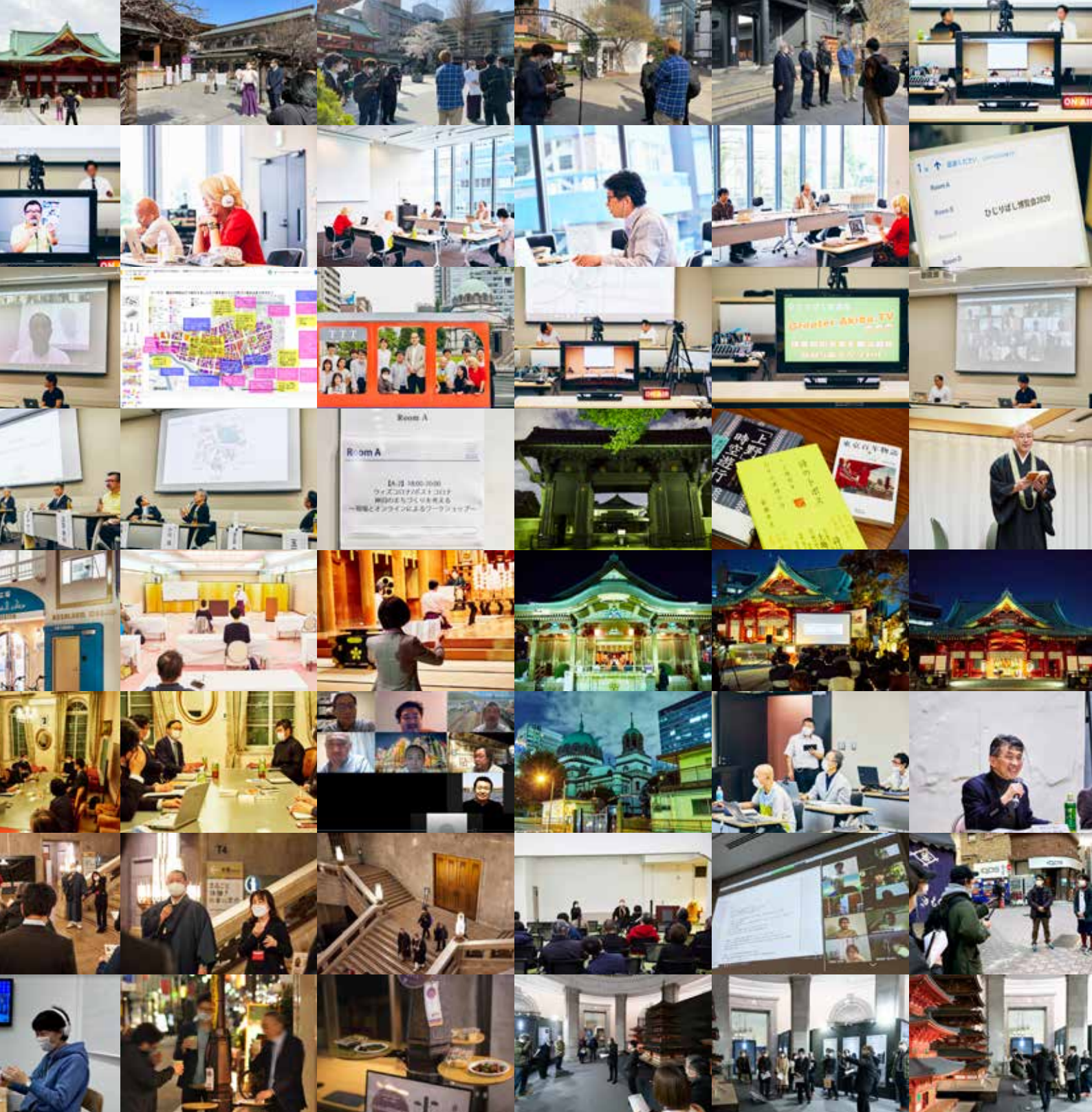
東京文化資源会議年報 2021 年度



▶ 目次

① 東京文化資源区構想（半径3キロ圏地図 第4版）.....	4
② 活動マップ（第6版）.....	5
③ 2030年に向けた構想「旨味都市の文化創生」及び 全国文化資源連携ビジョン策定委員会委員名簿	6
④ 活動中のプロジェクトチーム等一覧.....	10
⑤ 活動実績（2014年6月～2021年3月）.....	11
⑥ 2020年度プロジェクトチーム活動報告	14
⑥-1. 地図ファブ	14
⑥-2. 湯島神田上野社寺会堂研究会と崖東夜話	15
⑥-3. 本郷のキオクの未来	17
⑥-4. スポーツ文化資源	18
⑥-5. 上野スクエア構想	19
⑥-6. リノベーションまちづくり制度研究会	21
⑥-7. TokyoTramTown 構想.....	22
⑥-8. 広域秋葉原作戦会議	23
⑥-9. 上野ナイトパークコンソーシアム	25
⑥-10. やねせんあたり研究所.....	27
⑥-11. 神田まちづくり懇談会.....	28
⑥-12. ひじりばし博覧会2020（広報委員会）.....	30
⑥-13. 文化資源プロデュース塾.....	32
⑦ 2020年度収支報告及び監査報告.....	33
⑧ 2021年度事業計画案及び収支計画案.....	36
⑨ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会規約	38
⑩ 東京文化資源会議 役員名簿	39
⑪ 東京文化資源会議 賛助会員一覧.....	40





会資文東
議源化京
Tokyo Cultural Heritage Alliance

2021



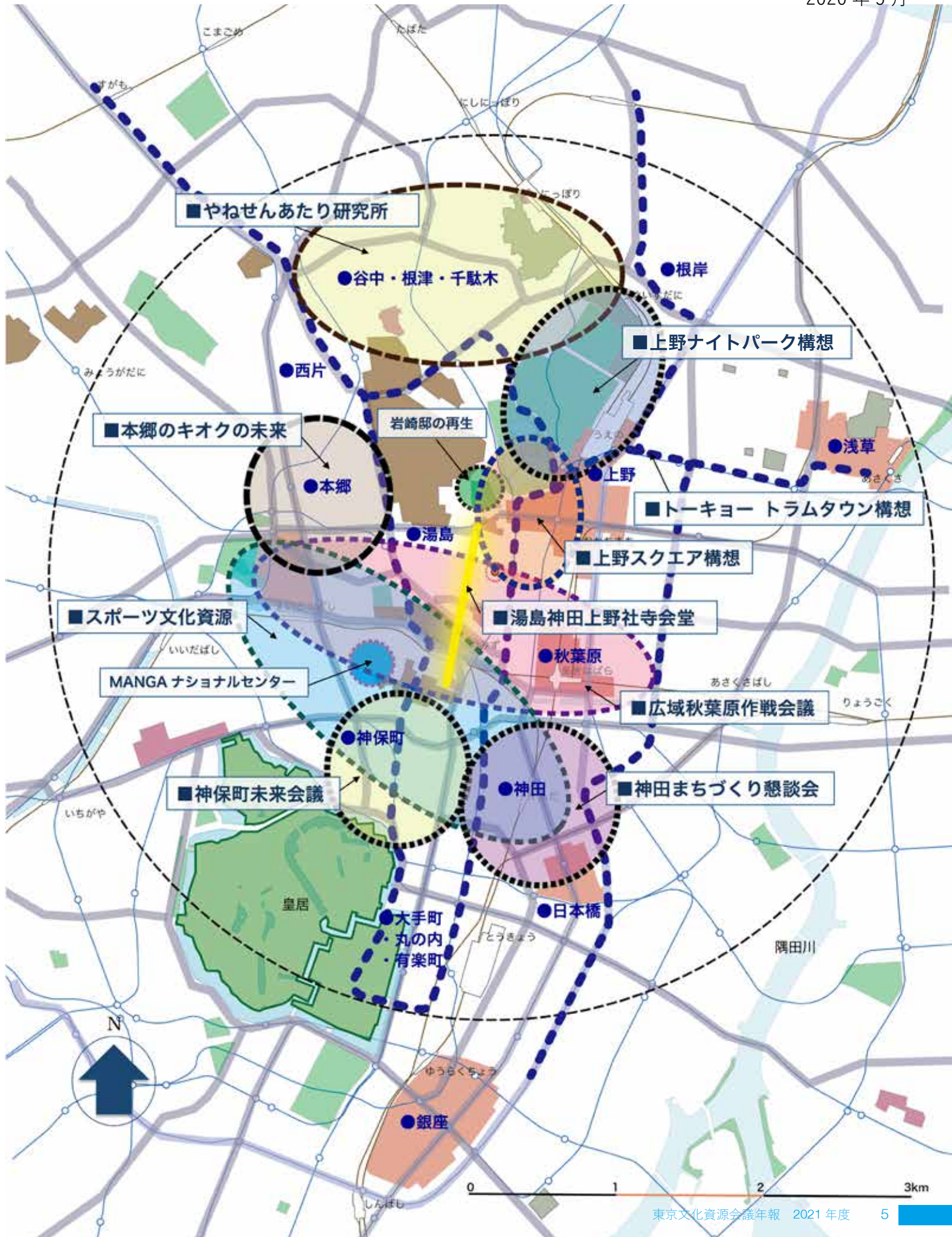
東京文化資源区構想 (ver.4)

2020年5月



東京文化資源会議 活動マップ (ver.6)

2020年5月



旨味都市の文化創生 ～2030 列島ビジョン～

東京文化資源会議
全国文化資源連携ビジョン策定委員会

1 大変動の中で東京の価値軸を転換する

2020年、歴史の大変動の中で日本は岐路に立っている。2019年12月に中国で始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、2020年春には世界を席卷し、経済に重大な打撃を与えた。その深刻さは2008年のリーマンショックを大きく上回るとも言われる。振り返れば、2001年の米国同時多発テロ、08年のリーマンショック、16年のブレクジットと米大統領選、そして2020年のコロナ・パンデミックと、21世紀に入ってから世界は一気に不安定化の度合いを強めてきた。日本国内でも、1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災と福島第一原発事故と、これまでの前提がまったく通用しなくなる時代を経験してきた。

この流れから考えるなら、2020年代が今よりも安定した時代になると考えるのは空想的である。世界の不安定化はさらに酷いものになっていく可能性があるし、その中で日本は漂流し続けるかもしれない。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言っていた時代はるか昔で、「クールジャパン」もそろそろ限界である。経済では、もはや日本は米中二大超大国に対抗できるような国ではないし、技術力でもICTや金融、生命科学といった先端領域では世界に遅れた。「強い分野」がまだいくつか残るが、若年人口が減り続けているので、日本が優位を保てる分野が果たしてどれだけ残るかはわからない。

このように日本全体が疲弊し、衰退にもがいていく時代においても、東京だけが煌びやかなグローバルシティであり続ける可能性は当面あるかもしれない。金融や情報、人材や知的基盤が著しく東京に集中しているからだ。しかし、このように日本の未来や大小の地方都市の未来と乖離した仕方では東京だけに一極集中化し続けることを、私たちは果たして望んでいるのだろうか。日本全体が「豊かさ」を回復するためには、何らかの根本的な価値転換が必要である。

その価値の大転換の根本が、経済的成長を基軸とする未来から、文化的成熟を基軸とする未来への転換である。経済に文化が付随するのではなく、文化は経済を支え、文化的成熟がもたらす価値を広く理解し、享受していく社会の実現である。この価値転換だけが、経済の急成長をまはや期待できない未来において、東京と地方が共存共栄しながら人口減少から環境破壊、格差や社会的ストレスまでの数多の問題を解決していく道である。なぜならば、地方都市は経済力では東京に圧倒されても、文化力ならばそれぞれの個性が固有の力を発揮していくことに道が開けるからである。

東京文化資源会議が目指しているのは、このような新しい日本のモデルとしての東京の価値転換を具体的に実現していくことである。その挑戦的フィールドとして、東京文化資源会議では、上野、谷根千、本郷、湯島、秋葉原、神保町の旧下谷区と旧神田区を合わせた都心北部地域を「文化資源区」として位置づけ、その文化資源の発掘・再編集・活用を目的とする各種プロジェクトを展開してきた。

私たちは、東京の価値が、実は規模の巨大さや経済力とは異なるところにあると考えている。17世紀から繁栄を続けてきた江戸・東京は、浮世絵や俳句から蘭学まで世界水準の町人文化を開花させ、明治以降は建築から絵画、文学、映画ま

で、非西洋世界のなかで最も高度に西洋に対抗しうる文化的達成を遂げた都市である。当然、ここには世界に誇るべき多様で莫大な文化資源が埋蔵されている。そして、その文化資源の大部分は、都心北部地域に集中している。上野は日本最大の博物館・美術館の拠点であり、本郷には学術の東大キャンパスが広がり、谷中から根津、千駄木にかけては古い町家が連なり、外国人観光客が路地と長屋、寺院や庭屋敷を楽しむ。神保町は、魯迅や周恩来といったアジアの若きリーダーが親しんだ私大と出版、書店の街だった。さらに、電気街に加えて日本のマンガ・アニメ・ゲーム文化の中心として知られる秋葉原までがコンパクトにまとまっている。

現状では、これらの諸街区は近接しているにもかかわらず回遊性はなく、地域を横断する歩道や緩やかな交通手段も未整備である。多くの人は、これらの地域が歩いて回れるほど近接していることに気づいていない。そのため、東京の文化的潜勢力が生かされていないのだ。東京文化資源会議は、5年前の発足時以来、この地域の多様な拠点をつなぎ、歴史的に積層する文化世界を回復させ、江戸・東京の文化・芸術・学術のポテンシャルを再生させようとしてきた。

今日、人々の価値観は大きく変化している。かつて、「より速く、より高く、より強く」を目指すことを当たり前のように思っていた状況はもはや存在しない。かつて1964年の東京オリンピックは、このスローガン通りのスピードを追求する東京を作り上げた。そしてその東京に追いつこうと、全国の地方都市が東京を真似た。

このような前のめりの直線的価値で支配される時代から、今、私たちは抜け出そうとしている。東京オリンピックを通じて作り上げられた価値を延長することによってではなく、そこで見失われていったもの、川や運河、路面電車、古い社寺や民家、自然の地形や環境、楽しむための知識、そして緩やかに流れる時間の中に、私たちの未来の価値があることに気づき始めている。未来の都市の価値は、過去との関係の結び直しの中にこそある。

2 「旨味の日本文化」の再発見

この新しい都市の価値軸は、新しい日本の価値軸でもある。それをたった一言で表現するなら、「旨味の日本文化」の再発見ということになる。「旨味」は日本独自の味とされ、味の主役ではないが、辛味、甘味、酸味、塩味すべての味を引き立て、味全体の厚みを増す要素とされる。一つの味で料理全体を染め上げてしまう傾向のあるアメリカ文化のようなあり方に対し、日本の文化を「旨味の文化」として定義する。そして、都市の中にそうした「旨味」の要素をふんだんに織り込んでいくことが、未来の東京を豊かにする。

この「旨味」は、東京の生活文化に無数に埋め込まれている。たとえば、繊細さを極める和洋の料理や菓子、職人技を生かした家具から本づくり、最先端のテイストであると同時に工芸的な製品まで、東京でしか口にすること、手にすることのできない店々の文化がここにはあり、これはフィレンツェやミラノのようなイタリアの都市にも比せられる。したがって、

東京文化資源区が目指しているのは、これらの文化的旨味を、単に継承することでも、それらを新しい価値に合わせてしまうことでもない。そうではなく、それらの「旨味」とは何かを見極め、それを再編集・再創造する仕組みを作ることである。

東京では、都市の風景の中にも「旨味」が多層的に埋め込まれている。都心北部では、その複雑な地形に守られながら、様々な時代の文化的痕跡が重層しており、風景の中に異なる歴史的時間が埋め込まれている。したがって、この都市では街歩きが多層的な時間旅行となる。このような経験は、過去が過去の形のまま保存修復されているヨーロッパの諸都市とも異なるし、過去との連続性を見出すことが難しいアメリカの諸都市とも異なる。過去とのつながりは幾層にも存在するのだが、まとまって保存されているわけではないので、その旨味を見つけ出し、可視化したり、結びつけたりしていく仕組みが必要となる。ハード面が際立つ欧米の都市ではなく、時間やその中で熟成されたコンテンツが埋め込まれたアジアの都市としての東京なのである。

したがって、21世紀の世界を強力に惹きつける東京の価値軸の再発見は、大規模な施設を作ることによっては実現されない。むしろ東京の「旨味」を発見し、この都市の地形的特徴を生かしながらそれらを結びつけることによってこそ実現する。東京文化資源区の構想は、そのような「都市の旨味」としての文化資源の保存や継承から、その再編集や再創造といった「味つけ」までを含む多様な取り組みを、とりわけそのインフラ整備に注力しながら進めていくものである。そしてそのことは東京にとどまらず、独自の文化が生まれ、埋め込まれている「地方都市の旨味」を引き出すことにもつながっていくのである。

東京文化資源会議では、このような考えを具現化するために、2020年を最初の道標として、2016年の発足時から様々な具体的活動を展開してきた。しかしそれらの活動は、本来の目標達成のための準備期間とも言うべきものであり、いよいよ2030年を目途に実現に向けて幾つかの具体的目標を設定したい。

3 旨味文化全開に向けての指針：

全国展開を視野に東京で始める

(1) 「文化創生区特別措置法（仮称）」の制定：

法律と制度の整備

社会の発展の基盤を成す豊かな文化（culture）が、その社会を耕す（cultivate）ことによって可能になるとすれば、耕す対象となる、いわば土壌としての文化資源の保全と再活用を通じた文化創生が大きな意味を持つ。デジタルコンテンツから建築まで、アンダーグラウンド文化からハイカルチャーまで、文化資源の態様は多岐にわたるが、その中で伝統的建築や街並みの占める位置は、世界規模のツーリズムや地域経済における世界遺産の例を引くまでもなく大きなものがある。我が国では、歴史まちづくり法等を活用して古い街並みや建造物の保全活用を行なっている事例は増えているが、まだ数

も少なく規模も小さい。そこで、区をまたいだ東京文化資源区（千代田区・文京区・台東区を中心に中央区、墨田区等江戸東京文化を引きつぐ地帯）あるいは中野区・新宿区・文京区・荒川区・台東区・墨田区を横断した地域を対象に、古い街並みや建造物の保全活用策を適用するための「文化創生区特別措置法（仮称）」を立法化することを考えたい。これはいずれ全国の歴史的な文化資源区を対象に適用できるものである。

とは言え、そうした法的手当てだけで街並みや伝統的建造物が維持活用されるものではない。そこでの生き生きとした生活や生業が成立しなければ、ただの映画セットになってしまうだろう。そのためには、そこで生活する人・商売をする人が世代を継いで続けられるための税制改革も不可欠である。具体的には、生業や価値ある伝統的建造物を維持していくための相続税の猶予や固定資産税の軽減などの対策が考えられる。それによって生じる税収減に対しては、ESG投資の導入、インバウンドや高齢者による消費活性化などによって補える部分があるだろう。普通に生活・商売を続けているだけで、固定資産税がどんどん上がり、土地を手放さなくてはならない状況は、まさに「国による地上げ」と言ってもよいのではないだろうか。

木造建築を残すための建築基準法の適用除外や行政区域全域を単位とする容積移転制度の拡大など、法律・制度による、文化資源の受け皿としてのハード整備は文化創生区設置の前提条件となる。

(2) スローモビリティを前提とするまちづくり

スローモビリティは、単なる交通手段の問題ではない。従来のスピード・効率化第一の観点から進められてきた都市生活と産業を転換し、ゆっくり、楽しく、考えながら、人・モノ・情報、そしてそれらの連関の動きを作り変える動因となる。それによって地域社会を活かす「界隈性」がそこに生まれるのである。

当然ながら交通体系の転換がそこで重要な役割を果たすことは間違いない。その具体化策として、スローモビリティ：トラム、小型車両、自転車、歩行などを第一義的な移動手段とし、地下鉄・バス等の公共交通を第二的手段、自動車等を第三的手段に位置づける必要がある。それは例えばこれまでの名所観光・大規模エンタメ施設中心の文化資源活用を変えて、路地規模での地域の文化資源の発見・創造にもつながり、日本人の生活態様そのものを変えるのである。こうした活用の前提となる地域毎の文化資源配置図を作ることもできるだろう。

(3) 人を育てる

このような新しい制度作りを立案し、担える人材の育成は不可欠であり、少数でもこうした人材の芽は全国にある。まずは東京文化資源区を対象に、民間レベルでそのような人材を見つけ、育成する場づくりを制度的・経済的に支援する必要がある。街の飲食業や手工業を事業継承していける仕組みづくりもその重要な手段のひとつであり、あるいは従来の「他人と比べて、より速く、より多く、より安く」こなせること

を評価するのではない、別の人材評価の価値を提示・定着させていくことも大事なことだ。

(4) デジタル技術の活用

提唱している日本の「旨味文化」の世界的な展開は、現地に来てもらい実際に体験することが重要なことは言うまでもない。海外にはない「きれいな」路地を回る体験は何ものにも代えがたいだろう。しかし一方で、世界の人々に来てもらうためにも、その価値を国際的に発信していく必要がある。そしてそれは東京と地方の関係にも言える。相互にその文化的価値を交換し、連動させていくことが肝要だ。そのためのデジタル技術の活用に重点を置いていきたいと考える。但し、デジタル技術というと、すぐに通信・ハード面の整備に傾きがちであるが、コンテンツ化とその編集、提示こそ重要な要因であることを忘れてはならないだろう。

(5) 規制緩和

上記(1)～(4)を実施していくためには、既存制度・法律の規制緩和が不可欠であり、それらの洗い出しと解決方向を明らかにしていきたい。

* 東京文化資源会議では、これらの課題に対してその問題発見と解決方向を模索するために様々なプロジェクトをこれまでに実施してきた。(1)はハリノベーションまちづくり制度研究会、(2)はトーキョートラムタウン構想プロジェクト、(3)は谷中プロジェクトスクール・やねせんあたり研究所、(4)は地域文化資源デジタルアーカイブプロジェクトなどであり、(1)～(4)で挙げたことは決して絵空事ではないのである。

4 地方中核都市の文化創生と政策的展開

文化資源の活用は当然ながら東京だけに限られるわけではない。全国に江戸時代、場所によっては平安時代から続く豊富な地域文化資源が存在する。しかしそれらを活用していくためには、何より人と場とお金が必要である。例えば、旧藩校があった地方都市は、ある程度の人口規模と歴史的文化的蓄積があり、地域経済の中心的役割を果たしてきた。そこに東京文化資源区で培った人材、ノウハウ、制度、そして国費を集中的に投入することによって、新しい地方文化創生のモデルを創り出すのである。それは東京発の全国一律的な文化モデルではなく、地域文化の独自性「旨味」を活かしたものとなり、これまでの中央/地方の図式を崩すものになるだろう。そのためには、人口が集中している東京からの人材派遣、地方出版社や地方新聞社の価値の再発見と支援、人的交流・海外発信による外国文化の直接的な受け入れ、伝統的街並みや建築を保全活用するための文化創生区特別措置法(仮称)の適用などが必要であり、各地で産官学民有志がフラットな関係で文化資源政策形成を議論するための公共的な場を用意する必要がある。その実例は東京文化資源会議が東京文化資源区を対象にこの5年間で示してきたと言えよう。

5 東京文化資源会議からの提案

以上の議論を踏まえ、東京文化資源会議としては以下の3点を、3で示した方針を具体化するための方策として、その実現に向けて関係者への働きかけ・協業を進めていきたいと考える。

- ①. 国レベルと地域レベルでの、産官学民横断の文化資源会議の設置
- ②. 「文化創生区特別措置法(仮称)」の制定
- ③. 以上のことを関係者が協議するための場の設定

全国文化資源連携ビジョン策定委員会 委員名簿

所属等は2020年3月末現在

- 青山 侖 明治大学名誉教授
- 伊藤 滋 東京大学名誉教授 <◎委員長>
- 久保田 尚 埼玉大学理工学研究科教授
- 隈 研吾 東京大学工学部教授
- 小泉 秀樹 東京大学先端科学技術研究センター教授
- 小林 正美 明治大学大学院理工学研究科教授・副学長
- 後藤 治 工学院大学理事長
- 佐藤 友美子 追手門学院大学地域創造学部教授
- 進士 五十八 福井県立大学学長
- 陣内 秀信 法政大学名誉教授
- 高野 明彦 国立情報学研究所教授
- 中村 政人 東京藝術大学美術学部教授・アーツ千代田 3331 ディレクター
- 西村 幸夫 神戸芸術工科大学大学院教授
- 廣瀬 通孝 東京大学先端科学技術研究センター教授
- 村上 裕道 文化庁地域文化創生本部研究官
- 森 まゆみ 作家、谷根千工房代表
- 森川 嘉一郎 明治大学国際日本学部准教授
- 門内 輝行 大阪芸術大学建築学科長・教授、京都大学名誉教授
- 八木 壯一 (株)八木書店会長
- 吉見 俊哉 東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授

計 20 名

活動中のプロジェクトチーム等一覧

2021年2月28日現在

*PM：プロジェクトマネージャーの略称

<プロジェクトチーム>

1. 3区文化資源地図ファブ（真鍋陸太郎座長、鈴木親彦 PM）
2. 湯島神田上野社寺会堂研究会（吉見俊哉座長、金井康子 PM）、社寺会堂塾（中島隆博塾長）
3. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
4. スポーツ文化資源（鈴木直文座長、逢坂裕紀子 PM）
5. 上野スクエア構想（中島直人座長、小野道生・永野真義 PM）
6. リノベーションまちづくり制度研究会（田村誠邦座長、小泉秀樹副座長、小野道生 PM）
7. トーキョートラムタウン構想（中島伸座長、谷口晋平 PM）
8. 広域秋葉原作戦会議（庄司昌彦座長、菊地映輝・井上奈智 PM）

<委員会等>

- 全国文化資源連携ビジョン策定委員会（伊藤滋委員長）
- 上野ナイトパーク構想会議（青柳正規座長）・上野ナイトパークコンソーシアム
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 広報委員会（柳与志夫委員長）
- 出版委員会（沢部均委員長）
- 東京トラムタウン構想委員会（中村文彦委員長）
- やねせんあたり研究所（片桐由希子主宰）
- 文化資源プロデュース塾（中村雄祐塾頭）
- 上野連携構想推進委員会（吉見俊哉委員長）

<個別の取組>

- 旧岩崎邸整備
- MANGA ナショナルセンター設置

<3区との協議会>

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

<関連協力団体>

- 非営利芸術活動団体コマンド N
- 神保町未来会議

東京文化資源会議 活動実績（2014年6月～2021年3月）

2021年3月18日現在

2014年

- ・ 第1回東京文化資源区構想策定調査委員会（6月6日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10月22日）

2015年

- ・ 東京文化資源会議設立総会（2月23日）、会議発足（4月1日）
- ・ 『東京文化資源区構想報告書』発行（5月）
- ・ 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5月21日）
- ・ 第1回役員会・賛助会員懇親会（6月18日）
- ・ 2015年度第1回総会（6月29日）
- ・ 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8月20・21日）：協力イベント
- ・ 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9月28日）
- ・ 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10月4日）：関連企画
- ・ 会員向けエクスカージョン「CTNを周ってみる」（10月17日・24日）
- ・ 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11月9日）～no.5（2016年2月14日）
- ・ 第1回東京ビエンナーレ企画委員会（11月25日）
- ・ 第1回文化資源連携ビジョン策定委員会（12月3日）
- ・ 「オズマガジン Meets 2015」：協力企画（中村政人氏対談）（12月13日）

2016年

- ・ 「三区文化資源地図協議会」発足（1月1日）
- ・ 文化資源地図ファブPT第1回会合（1月21日）
- ・ 公開シンポジウム no.2「2030東京ビジョン：3区長、大いに語る」（2月4日）：朝日新聞社共催
- ・ 国際連携チーム（ILT）発足（3月9日）
- ・ まちの作戦会議@谷中P成果発表会（3月13日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3月24日）
- ・ 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3月25日）
- ・ フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4月22日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5月25日）
- ・ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6月1日）
- ・ 湯島神田社教会堂プロジェクト第1回検討会（6月8日）
- ・ 『第2回公開シンポジウム報告書』発行（6月14日）
- ・ 2016年度第1回総会（6月23日）
- ・ 第1回神田まちづくり懇談会（6月27日）
- ・ 第1回文化プログラム推進協議会（7月6日）
- ・ フォーラム no.2「上野スクエア計画第1回フォーラム」（8月23日）
- ・ トーキョートラムタウン構想第1回勉強会（10月6日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10月7日）
- ・ 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社教会堂」（10月19日）
- ・ フォーラム no.3「上野スクエア計画第2回フォーラム」（10月21日）
- ・ 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12月5日）
- ・ スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12月12日）

2017年

- 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3か国版で発行（4月1日）
- 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4月11日）
- 神田祭ラボお披露目会 4/22、神田祭ライブ 5/13（3区文化資源地図ファブPT）
- ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5月30日）
- 第1回上野スクエア構想検討委員会開催（5月31日）
- 第1回広報委員会（5月31日）

- ・ 2017年度第1回総会（6月30日）
- ・ 「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7月4日）
- ・ 特別賛助会員懇親会（7月7日）
- ・ 第1回リノベまちづくり制度研究会開催（8月2日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9月7日）
- ・ フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けて — 湯島神田社教会堂検討会」（10月17日）
- ・ 公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社教会堂プロジェクト」（11月14日）
- ・ 公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かす — 地域文化資源デジタルアーカイブの役割 —」（11月24日）

2018年

- ・ 朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3月26日）
- ・ 帝都物語第1回トークセッション（地図ファブPT）（6月11日）
- ・ 2018年度第1回総会（7月2日）
- ・ 第1回社教会堂塾開催（7月4日）
- ・ 2018年度第1回全国文化資源連携ビジョン策定委員会開催（7月10日）
- ・ 公開シンポジウム no.7「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」（9月6日）
- ・ 関連企画：東京ビエンナーレ構想展トーク企画「東京文化資源区の観点から『東京ビエンナーレ』を考える」（9月29日）
- ・ 公開シンポジウム no.8「発見！『上野スクエア構想』開かれた文化資源」（10月1日）
- ・ 第1回上野ナイトパーク構想会議開催（10月3日）
- ・ 帝都物語第2回トークセッション（地図ファブPT）（10月18日）
- ・ フォーラム no.5「開かれた文化資源区『上野スクエア』を实践する」（10月31日）
- ・ 東京文化資源会議交流会@旧山口萬吉邸（11月7日）
- ・ 公開シンポジウム no.9「神田明神ホール完成披露 地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神 — 重層化する都市の文化資源を愉しませる —」（12月14日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議 アイディアソン vol.1「ライブエンターテイメント特区を考える」（12月15日）

2019年

- ・ フォーラム no.6「まちづくりプロジェクトスクールの可能性 —『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみ —」（1月19日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.4「トーキョートラムタウン構想 — スローモビリティが変える東京の都市生活」（2月18日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議 アイディアソン vol.2「アキバ拡張作戦」（2月26日）
- ・ 第1回上野ナイトパーク構想企画検討会開催（3月7日）
- ・ 公開シンポジウム no.10「上野ナイトパークが日本を変える」（4月3日）
- ・ 第1回「池の端仲町かいわい 空きスペース活用ミーティング」（4月19日）
- ・ 広報イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」開催（5月5日）
- ・ 第1回総合戦略チーム会議（5月9日）
- ・ 新事務所開き（6月12日）
- ・ トークショー「街を更新する小さなパブリックスペース ～神社やお寺や聖堂が身近にある暮らしを考える」（社教会堂研究会）（6月21日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議 アイディアソン vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」（6月28日）
- ・ 2019年度第1回総会・上野関連プロジェクト報告会（7月11日）
- ・ アーツ&スナック運動（9月20日、21日）
- ・ 公開シンポジウム no.11「時層する東京と社教会堂」（11月6日）
- ・ 第1回東京トラムタウン構想委員会開催（12月2日）
- ・ 広域秋葉原作戦会議 アイディアソン vol.4「スローモビリティで楽しいアキバ」（TTT 構想 PT との共催）（12月7日）

2020年

- ・ デジタルアーカイブ・ワークショップ（日比谷図書文化館）（2月1日）
- ・ やねせんあたり研究所第1回研究・活動発表会（2月24日）
- ・ 緊急特番「# Save your AKIBA」（5月20日）
- ・ オンライン発表&討論会「大学生と考える上野の都市デザイン2題」（6月11日）
- ・ ひじりばし博覧会2020（ソラシティ）（7月24日）
- ・ 広域秋葉原放送局第1回放送（8月7日）
- ・ ガイトウスタンド開設（10月14日～11月28日）
- ・ 第1回崖東夜話（神田明神ほか6施設）（10月27日）
- ・ 第1回上野連携構想推進委員会開催（12月7日）

2021年

- ・ 上野ナイトミュージアムツアー（2月12日・19日）、ポッドキャストコンテンツ「10代ミュージアムによるラジオ」制作・配信（2月22日～）：文化庁による博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託事業として実施

< 出版物 >

書籍等

- ・ 『オリンピック文化プログラム』 勉誠出版、2016年
- ・ 『東京文化資源区の歩き方』 勉誠出版、2016年
- ・ 同人誌『広域秋葉原作戦 2019 β』 2019年
- ・ 『帝都物語地図カタログ』 2019年
- ・ 『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』 2020年

報告書

- ・ 『東京文化資源区構想』 2015年
- ・ 『2030東京ビジョン 3区長、大いに語る』 2016年
- ・ 『湯島社寺会堂プロジェクト報告書』 2017年
- ・ 『上野スクエア第二次構想報告書』 2018年
- ・ 『上野ナイトパーク構想報告』 2019年
- ・ 『リノベーションまちづくり制度研究会 2018年度報告書：東京歴史文化地区の創出にむけて』 2019年
- ・ 『TOKYO TRAM TOWN 構想計画』 2020年
- ・ 『旨味都市の文化創生 ― 2030列島ビジョン』 2020年

パンフレット

- ・ 「東京文化資源会議：2030Tokyoを変える！」 2016年～（随時改訂）
- ・ 「上野スクエア構想シンポジウム」 2016年
- ・ 「湯島・神田・秋葉原めぐり（日英中3か国版）」 2017年
- ・ 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」 2017年
- ・ 「江戸・東京 知の交差点 グレーターアキバ（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「江戸・東京 水を愉しむ文化都市（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「近代スポーツ発祥の地をたどる（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウントウン（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「上野アップタウン 観る・学ぶ・想う・街 お寺からアートへ（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 『アーツ&スナック運動』 第1号、2020年
- ・ 「TOKYO TRAM TOWN 10のQ&A」 2020年

定期刊行物

- ・ 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』（季刊、2017年9月～）
- ・ 『東京文化資源会議総会資料（年報）』（年刊、2016年～）

1. 崖東夜話へ3つの「ぶらり」を提供

・「崖東夜話 第一夜」の開催（2020年10月27日）に合わせ、「崖東夜話ぶらり」「社教会堂ぶらり」「精神文化ぶらり」の3つのweb地図サービス「ぶらり」を展開した。

※いずれもUP TOKYO BURARI からアクセス可能。

https://m.stroly.com/up_tokyo

・「崖東夜話ぶらり」には対象地域の一般的な話題を集約している。崖東夜話に登場する各施設にかかわるより深い情報を「社教会堂ぶらり」に掲載した。さらに、書籍『社教会堂から探る 江戸東京の精神文化』で語られている学術的な考察には「精神文化ぶらり」から触れることができる。

・「崖東夜話ぶらり」と「社教会堂ぶらり」のコンテンツ制作にあたっては、東京文化資源会議発行のガイドブックのコンテンツを参照し、東京文化資源区に集積した6つの宗教・文化施設が一同に会する崖東夜話イベントに関係するものを厳選して掲載している。

・「精神文化ぶらり」では、書籍編著者の中島隆博先生（東京大学教授 / 東アジア哲学 / 社教会堂 PT）と中村雄祐（東京大学教授 / 文化資源学 / 地図ファブ PT）により書籍の中の文章から地図上に展開することに相応しい内容が選ばれた。



「崖東夜話ぶらり」より
「御江戸絵図」と「うえの桜まつり」解説文

・この3つのぶらりでは、現在の地図が表示されると同時に、【江戸】御江戸絵図(1859)、【明治】東京一目新圖(1897)、【大正】東京市全圖(1923)、【昭和】帝都近傍圖：戦災焼失区域表示(1946)、【昭和】東京詳細地図：道路・緑地・配置版：新生(1946)、標高地図といった地図の上にコンテンツを展開しながら、街を散策することができる。

・なお、本ぶらりシリーズの制作にあたっては、当プロジェクトチームに加わっていただいている(株)Stroly様のご協力を得ています。

2. 「崖覧会」の開催

・2021年3月24日に「崖覧会(その1)」を開催した。2020年10月27日に開催された崖東夜話に連動して出版された『社教会堂から探る 江戸東京の精神文化』および、アプリサービス「精神文化ぶらり」も見ながら文化資源区の街を歩き、書籍・学術コンテンツ・アプリと街・観光のつながりを考える、まちあるきイベントである。ナビゲーターは『社寺街道から探る』の編著者・中島隆博先生と中村雄祐が務めた。

・タイトルにした「崖覧」は「がいらん」と読む。今回作られた造語で、「崖東夜話」からとって崖に沿っている各施設のつながりを示している。さらに、内覧会と対比的に外覧、街を見る街覧などさまざまな「がい」の意味を持たせている。

・当日は、湯島天神に集合し、神田明神、ニコライ堂、湯島聖堂と、ナビゲーターの解説のもと崖覧して回り、最後は湯島聖堂・講堂で意見交換会を実施した。

・本イベントは計画段階からB to B (Business to B) およびA to B (Academic to B) を念頭に置いていた。そのため、当会議賛助会員、コンテンツを展開できる出版各社、報道各社、等に参加いただいた。参加者は15名+スタッフ11名(撮影スタッフ含む)であった。

・本イベントでは、映像として記録を残すことを試み、「文化資源プロデュース塾」で中心的な役割を果たした角田陽一郎氏(バラエティプロデューサー)による撮影をおこなった。東京文化資源会議の映像コンテンツとしてYouTubeにて公開する予定である。



当日、各施設での解説・撮影の様子



活動概要

湯島神田上野社寺会堂プロジェクトでは、異なる思想背景や専門性をもつ宗教者や研究者が集まり、文化・宗教施設が果たしてきた精神的な役割を再確認するとともに、今日求められる新たな精神文化の形成に果たしうる役割について考えてきました。

第1期（2016年～2017年）では主に研究会に参加した文化・宗教施設の相互交流や課題共有を行ない、第2期（2017年～2018年）では東京理科大学宇野研究室と日建設計によるフィールドワークと地形模型制作をとおして歴史や地形の特性を学ぶとともに中間報告会を開催、第3期（2019年～2021年3月）では社寺会堂塾の巡回講座や初回崖東夜話の開催、さらに崖東夜話の関連書籍『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』発行等の活動を進めてきました。

今後の取組み（第4期 2021年4月～）

- ① 文化・宗教施設による共同イベント「崖東夜話 第二夜」の開催
- ② 社寺会堂塾の継続
- ③ 崖東エリアの環境整備提案に向けたビジョンの共有
- ④ 崖東エリア散策ツアーの実施

活動記録

開催日	場所	内容
2020.5/7	湯島天満宮	鼎談（前掲書に収録）
6/9	湯島天満宮	文化・宗教施設のインタビュー（前掲書に収録）
6/30	学生会館	座談会（前掲書に収録）
7/24	御茶ノ水ソラシティ	ひじりばし博覧会
8/11	オンライン	湯島神田上野社寺会堂研究会
10/14	オンライン	湯島神田上野社寺会堂研究会
10/27	文化・宗教施設（6会場）	崖東夜話
10/30	書籍発行（勁草書房）	『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』
12/9	オンライン	湯島神田上野社寺会堂研究会
2021.2/10	オンライン	湯島神田上野社寺会堂研究会

ひじりばし博覧会：社寺会堂デジタルアーカイブラボ「集うことの意味を問い直す」

（文化資源デジタルアーカイブPT 連携ワークショップ）

進行 中島隆博
 参加施設 寛永寺、アッサラームファンデーション
 湯島天満宮、神田明神、湯島聖堂 斯文会
 東京復活大聖堂教会

※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止（2020年7月24日）

建築模型プロジェクション「社寺会堂のまち」

東京理科大学宇野研究室

※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止（2020年7月24日）

湯島神田上野社寺会堂研究会メンバー

五十音順・敬称略

稲葉 あや香	東京大学大学院
宇野 求	建築家・東京理科大学嘱託教授
押見 匡純	湯島天満宮権宮司
金井 康子	東京文化資源会議事務局：PM
国広 ジョージ	国土館大学教授
高 佳音	東京理科大学講師
齋藤 希史	東京大学教授
清水 祥彦	神田明神宮司
対中 秀行	東京復活大聖堂教会主任司祭
平 正路	湯島聖堂斯文会事務局長
張 競	明治大学教授
鳥居 繁	神田明神権禰宜
中島 隆博	東京大学教授
中村 雄祐	東京大学教授
モハメッド ナズィール	アッサラームファンデーション代表理事
サーラさをり ナズィール	アッサラームファンデーション役員
広田 直行	日本大学教授
藤井 恵介	東京大学名誉教授
宮部 亮侑	東叡山寛永寺執事
宮本 英尚	湯島聖堂斯文会常務理事
山崎 蘭加	華道家
横山 泰子	法政大学教授
吉見 俊哉	東京大学教授：座長



「崖東夜話 第一夜」開催と書籍『社社会堂から探る 江戸東京の精神文化』発行

10月27日（火）午後6時半から午後11時まで、これまでの活動を踏まえ、六つの文化・宗教施設による初の共同イベント「崖東夜話」（がいとうやわ）を開催しました（<https://www.gaitou-yawa.org>）。新型コロナウイルスが流行するなか、できる限り企画の意図を変えず安全な開催を図れるよう準備を進めましたが、感染防止を徹底するため、各施設の根底をなす思想文化を秋の夜宴のような寛いだ雰囲気の中で語り合う、という本来目指した会の姿は、残念ながら満足いく形で実現することはできませんでした。一方、そのような未曾有の状況にもかかわらず、企業や研究者の方々から積極的な参画をいただき、「文化資源プロデュース塾」の開催、オンラインマップ「地図ぶらり（崖東夜話ぶらり・社社会堂ぶらり・精神文化ぶらりによる3層構成）」の製作、イベント関連書物を紹介する「崖東語蔵」の設置など、オンラインを活用した創意あふれる試みとともに、イベント当日には動画配信、プロジェクション・講談、宿泊つきパッケージツアーの提供など、当初の想定を上回る豊かなイベントを実現することができました。

コロナ禍の終息が見通せないなか、異なる思想背景や専門性をもつ宗教者、研究者、参加者が時間的・空間的に一つのイベントに集い、意識を共有する機会を設けることができたことは、多彩な文化・宗教施設の交流や魅力の可視化を目指す「崖東夜話」の始まりとして、大きな一歩になったと思います。

書籍『社社会堂から探る 江戸東京の精神文化』（勁草書房 10月30日発行）は、「崖東夜話」の企画の源泉である文化・宗教施設の関係者へのインタビュー、哲学思想史の研究者による論考と座談会、宗教者と研究者の鼎談などを収録しています。



活動概要

かつて本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして銭湯、さらには学生街を形成していた様々な商店など、いろんな形の「文化」が培われてきていました。しかし、現在の本郷の街を見てみると、そうした文化資源と呼べるものはどんどん姿を消しています。

私たちは、東京文化資源会議の協力のもと、文京建築会ユース・株式会社松下産業・東京大学（知能機械情報学専攻／都市工学専攻）・跡見学園女子大学・文京区・地域住民など、本郷にゆかりがあるメンバーが集まり、本郷の魅力発信につながる文化資源の保全・活用を目指して活動をしています。

活動発足から5年目となる2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に翻弄されながら、新しい学生メンバーとともに地道に活動を続けてきました。

2020年度取組み方針

「本郷地域における保全・記録の対象とすべきものの発掘・リストアップを確認し、

対象を選んで保全・活用のためのまちづくりファンドの適用等を検討し、実際の保全につなげる。

例年の活動（本郷のキオクを語り聞かす会）等も継続し、引き続き本郷の文化資源の記録・発信を進める。」

2020年度活動記録

開催日	行事
4/8 (水)	(開催) 東大都市デザイン研究室 プロジェクト報告会 @zoom
4/19 (日)	(中止) 本郷一円の研究発表会+まちあるきイベント (キオク PT 主催)
4/28 (火)	(開催) 第36回ミーティング @zoom
5/5 (祝)	(延期) 東京文化資源会議イベント「ひじりばし博覧会2020」 (キオク PT 出展)
5/24 or 31 (日)	(延期) 「本郷のキオクを語り聞かす会2020 本郷館編」 (キオク PT 主催)
5/26 (火)	(開催) 第37回ミーティング @zoom
6/23 (火)	(開催) 第38回ミーティング @zoom
7/24 (金祝)	(中止) 東京文化資源会議イベント「ひじりばし博覧会2020」 (キオク PT 出展)
7/27 (月)	(開催) 第39回ミーティング @zoom
8/26 (水)	(開催) 第40回ミーティング @zoom
9/6 (日)	(開催) 「本郷界隈リモートまちあるき」 (キオク PT 主催)
9/11 (木)	(開催) 喫茶ボンナ解体前建築調査、物品保存
10/4 (日)	(開催) 「本郷のキオクを語り聞かす会2020 本郷館編」 (キオク PT 主催)
11/4 (水)	(開催) 第41回ミーティング @zoom
12/9 (水)	(開催) 第42回ミーティング @zoom
12/11-12 (金土)	(開催) 「鳳明館で本郷の映像をまとめよう ワークショップ」 (キオク PT 主催)
3/3 (水)	(開催) 第43回ミーティング @zoom

本郷のキオクの未来プロジェクトチーム 事務局

座長：栗生はるか（文京建築会ユース）

PM：細見直史（株式会社松下産業）・

三文字昌也（東京大学大学院）

会計及び事務サポート：NPO 法人 街 ing 本郷

「本郷界隈リモートまちあるき」

2020年9月6日（日）東大前駅 本郷菊坂にて新入メンバーとともに本郷の見所を歩くまちあるきを開催した。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を踏まえ、リアルでの参加者を限定した上で Zoom 及び YouTube でリアルタイム配信を行った。



喫茶ボンナ解体前建築調査、物品保存

2020年9月11日（木）喫茶ボンナにて東大正門前の景観を作っていた本郷通り沿いの長屋の一角の風景のキオクを残すことを目的とし、年度内の解体が予定されていた「喫茶ボンナ」の建築調査（実測、3D画像撮影等）及び物品什器の保存を行った。



「本郷のキオクを語り聞かす会2020・本郷館編」

2020年10月4日（日）鳳明館森川別館にて2011年に解体された巨大木造下宿・本郷館にかつて居住していた方にお越しいただき、当時の生活や本郷のまちについてお聞きするトークイベントをオンラインにて開催した。本郷館の真向かいにある鳳明館森川別館から中継し、大勢の方に視聴いただいた。



「鳳明館で本郷の映像をまとめよう ワークショップ」

2020年12月11日-12日（金・土）鳳明館森川別館にて9月11日に実施した「リモートまちあるき」の2時間の映像を、短く10分程度にまとめる動画編集ワークショップを開催した。参加者はプロジェクトメンバー10名ほどで、講師は東京ケーブルネットワークの松尾遼氏に依頼した。



活動概要

スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、既成の枠組みを超えて、新しい”遊び”の場を文化資源区に生み出すことを理念としています。2020年度は、地域と協働した企画の運営により、日常的な”遊び”の空間を地域に埋め込むことを目標として活動を進めてきました。2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により予定していたイベントは中止を余儀なくされ、これまで実空間を舞台に活動をすすめてきたスポーツ文化資源プロジェクトチームとしては、今までに無い触れ方で人々がコンタクトを取ることや、そもそもスポーツというものが何故必要なのかという根源的な問いについて改めて考える一年となりました。

ひじりばし博覧会

「スポーツで遊ぶ、スポーツとつながる」【中止】

7月には御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターでのイベント「スポーツで遊ぶ、スポーツとつながる」の開催に向けて準備をすすめていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を鑑み、「スポーツを実施する」という企画の都合上「距離を保って」「大声で発生をせずに」遊ぶことの難しさから、大変残念ではありましたが、開催中止の判断をいたしました。

GoTo 商店街事業「しのばず遊ぼう！池と町」

感染防止の観点から例年開催してきた「神田スポーツ祭り」でのイベント実施を見送るなど、チームとして地域と協働した企画の実施に困難を抱えた一年でしたが、2020年冬からは上野二丁目仲町通り商店会・池之端仲町商店会によるGoTo商店街事業（中小企業庁）に申請段階から参画しました。同事業は、3密対策等の感染拡大防止対策を徹底しながら、商店街が「地元」の良さの発信や、地域社会の価値を見直すきっかけとなる取組を支援するもので、当チームでは池の端の文化資源を生かして、誰もが一緒に楽しめる遊び方を提案しました。



当初は実空間でのイベント実施を予定していましたが、東京都下の緊急事態宣言発令にともない「池之端ウォーク&プレイ」と題した2本の動画制作およびYouTube上での公開に切り替え、実施いたしました。ウォーク編動画では、上野の山、不忍池の畔、仲町を巡り、各スポットの歴史や文化資源について語りながら、ゴールを目指します。起伏に富んだ上野の地形を、スピードにとらわれず、自分のペースでゆっくり身体を動かしながら、上野の山と池之端のポイントを辿る内容となっています。もうひとつのプレイ編動画では、上野仲町通り商店街の魅力ある店舗や、全長270mの直線的な通りを生かして、10分時間当てウォーク、まちなか視力検査、お手玉ポッチャ、まちなか玉入れなど、誰もが一緒に楽しめる遊びを工夫してみました。2本の動画は以下リンク先からぜひご覧ください。

「しのばず遊ぼう！池と町」YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UC91fvKDYjx_QH8GY_WzDURw



メンバー

新雅史（流通科学大学商学部）

逢坂裕紀子（東京大学文書館）

角谷幹夫（V3 Kadoya）

川田幸生（NPO 法人スマイルクラブ）

近藤純子

佐々木一成（一般社団法人プラスハンディキャップ）

澤井和彦（明治大学商学部）

鈴木直文（一橋大学大学院社会学研究科）

高橋圭（株式会社フクフクプラス）

高橋義雄（筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群スポーツウェルネス学学位プログラム）

堂免隆浩（一橋大学大学院社会学研究科）

福田哲郎（公益財団法人日本サッカー協会）

森田暁（東京地域史研究）

柳与志夫（東京文化資源会議事務局長）

活動記録（開催日 / 場所 / 内容）

2020.7/6	オンライン	ひじりばし博覧会「スポーツで遊ぶ、スポーツとつながる」準備
7/24	ソラシティカンファレンスセンター	ひじりばし博覧会「スポーツで遊ぶ、スポーツとつながる」(中止)
10/6	オンライン	プロジェクトチーム定例会：コロナ禍における今後の活動方針策定
10/16	上野仲町通り	仲町通り・ガイトウスタンド見学
10/22	オンライン	プロジェクトチーム定例会：GoTo 商店街事業会議
10/31	オンライン	プロジェクトチーム定例会：GoTo 商店街事業会議
12/27	オンライン	プロジェクトチーム定例会：GoTo 商店街事業「池之端ウォーク&プレイ」会議
2021.1/10	上野公園・仲町通り	「池之端ウォーク&プレイ」現地下見（緊急事態宣言発令を受けて中止）
1/21	オンライン	プロジェクトチーム定例会：GoTo 商店街事業「池之端ウォーク&プレイ」会議
1/31	上野公園・仲町通り	GoTo 商店街事業「池之端ウォーク&プレイ」動画ロケハン
2/6	上野公園・仲町通り	GoTo 商店街事業「池之端ウォーク&プレイ」動画撮影
2/27	上野仲町通り、アーツ千代田 3331	Tcha 14号取材、「池之端ウォーク&プレイ」動画アフレコ
3/28	台東区上野地区センター	「池之端ウォーク&プレイ」動画上映および振り返り

活動概要

不忍池・湯島天神・上野広小路・アーツ千代田 3331 に囲まれたエリアをつなぐことを目指している上野スクエア構想プロジェクトチームは、2018年度にまとめた第二次構想ビジョンに基づきながら、より地元と連携したアクションを展開しています。2019年度より、上野スクエアエリア内での具体的な取り組みとしてスタートした「アーツ & スナック運動」は、地元ビルオーナー・東京大学都市デザイン研究室と連携したプロジェクトで、不忍池のすぐ南側の一帯の歓楽街である仲町通り界隈を対象として活動しています。この界隈は、上野スクエア構想としても、不忍池との関わりが深く、上野と湯島を東西に繋ぎ、かつ吹貫横丁を通じて南はアーツ千代田 3331 まで繋がる扇の要となる地区です。2020年度はコロナ下なりの取り組みを大きく3つ行いました。

①オンライン発表&討論会『大学生と考える上野の都市デザイン2題』

2020年5月20日に、アーツアンドスナック運動を進める東京大学都市デザイン研究室と、トーキョートラムタウン構想を進める東京都市大学都市生活学部都市空間生成研究室が共催で、上野の都市デザインを考える討論会をオンラインで開催しました。両研究室のメンバー以外に、地元関係者も参加し、活発な議論を行いました。アーツアンドスナック運動のチームは、歓楽街の仲町における5つの空きスペース「ストリート」「ソシアルビル」「空きスナック」「屋上」「ファサード」を視覚化し、それらを街の資源として再生していく提案を行いました。



活動記録

- 2020年5月20日 オンライン発表&討論会『大学生と考える上野の都市デザイン2題』
- 2020年7月24日 『密に交わる空間』をめぐるラウンドテーブル（上野）歓楽街・繁華街で起きていること、起きうること
- 2020年10月14日～11月28日 上野・湯島 ガイトウ スタンド&テラス（毎週金土）
- 2021年3月1日 『ガイトウスタンド 道路占用社会実験 2020 報告書』発行

②『密に交わる空間』をめぐるラウンドテーブル

2020年7月24日、ひじりばし博覧会の中で『密に交わる空間』をめぐるラウンドテーブル（上野）歓楽街・繁華街で起きていること、起きうること」を開催しました。「夜の街」のレットルを貼られ極めて厳しい状況に陥った上野・仲町通りの界隈について現状を丁寧に議論するラウンドテーブルを開催しました。上野スクエア構想関係者のほか、地元商店主や有識者が対面・オンラインを交えてディスカッションし、厳しい現状の中、街が今後大切にすべきことを共有する機会となりました。



登壇者

- 五十嵐泰正（筑波大学）
- 尾崎昂臣（湯島夜学バー brat オーナー）
- 前川弘美（株式会社長岡商事）
- かすやかずのり（本とメイドの店 気絶オーナー）
- 小野道生（都市計画設計研究所）
- 道明葵一郎（有職組紐道明）
- 中島直人（東京大学都市デザイン研究室上野スクエア構想座長）
- 永野真義（東京大学都市デザイン研究室）
- 藤井靖子（きもの池之端藤井）
- 宮内雅康（宮内写真場）
- 東京大学都市デザイン研究室大学院生有志
- 東京大学都市工学科四年生有志



③ガイトウスタンド

コロナ禍における街なかでの実践として、仲町通りのアイデンティティである街灯に注目。街灯を、外飲みもできるスタンドテーブルに変えてしまおうという『ガイトウスタンド』プロジェクトが始動しました。2020年6月に国交省から出された三密対策を目的としたテラス席利用のための道路占用緩和基準を受け、8月末に商店会で道路占用許可の取得が完了。10～11月の金・土に、車両通行止めとなる17時以降、ガイトウスタンドを地元の方々と共に設置しました。

第二次上野スクエア構想でも重要ポイントとして掲げていた街路空間の積極的活用が実現し、メディアや行政、まちづくり関係者からも大いに注目を集めました。また2021年3月には東京大学都市デザイン研究室が、ガイトウスタンド利用者の利用動向を調査したものを報告書としてまとめ、大いにその活動をPRしました。



アーツアンドスナック運動実行委員会名簿

五十音順・敬称略

- ・ 道明葵一郎（実行委員長・有職組紐道明）
- ・ 藤井成子（きもの池之端藤井）
- ・ 藤井靖子（きもの池之端藤井）
- ・ 藤井裕美子（きもの池之端藤井）
- ・ 佐藤明（板倉茶屋要）
- ・ 前川弘美（株式会社長岡商事）
- ・ 宮内雅康（宮内寫真場）
- ・ 小野道生（上野スクエア構想 PM・株式会社都市計画設計研究所）
- ・ 福岡俊弘（合同会社スノウクラッシュ）
- ・ 星野善晴（法政大学）
- ・ 中島直人（上野スクエア構想座長・東京大学）
- ・ 永野真義（上野スクエア構想 PM・東京大学）
- ・ 東京大学都市デザイン研究室学生 PJ メンバー 6 名
- ・ 直島なぎさ（東京芸術大学）
- ・ 深澤文（千葉大学）

「東京歴史文化まちづくり連携」の立ち上げ

リノベーションまちづくり制度研究会（リノベ研）は、昨年のひじりばし博覧会において、東京区部各地の歴史文化まちづくり団体の賛同と協力を得て「東京歴史文化まちづくり連携」を立ち上げました。「東京歴史文化まちづくり連携」は、それぞれの地区でさまざまな歴史的・文化的な地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいる団体の相互の連携を強化し、そこでの交流・連携を通して、歴史文化まちづくりの目標像や直面する課題等の情報を交換・共有するとともに、東京都や国に対し、支援制度を含む解決策をともに検討・提案していくことを意図して立ち上げた連携組織です。ひじりばし博覧会で開催したキックオフフォーラムでは12団体の参加を得て、オンライン開催の制約のなか、非常に有意義な情報共有・意見交換が行われました。



リノベ研では、今後も年に1回はこのような機会を持ちながら、東京の歴史文化まちづくりの実践に資するよう、「東京歴史文化まちづくり連携」の運営支援を行っていく予定です。

第2期リノベ研名簿（順不同・敬称略）

委員 田村 誠邦（明治大学 アークブレイン）【座長】
 小泉 秀樹（東京大学）【副座長】
 飯塚 洋史（quod）
 佐々木晶二（土地総合研究所 元国交省）
 椎原 晶子（たいとう歴史都市研究会）
 鈴木 俊治（芝浦工業大学）
 山本 玲子（全国町並み保存連盟）
 小野 道生（都市計画設計研究所）【PM】

オブザーバー 中山 靖史（UR 都市機構）
 柳 与志夫（東京大学 東京文化資源会議事務局長）

事務局 稲葉あや香（東京大学）
 沼 千春（東京大学）

第2期研究会スタート

これまでの第1期研究会では、国・東京都・地元区に対する政策要望のとりまとめ等を中心に活動を展開してきました。その段階を経て、次は現場の必要に立脚した具体的な政策提案を打ち出したいと、新メンバーの参画も得て第2期研究会をスタートしました。第2期研究会では、先の「東京歴史文化まちづくり連携」のキックオフフォーラムで各団体から提示された課題を整理し、取り上げるべき共通の課題に対して制度的対応を検討・提案することを意図しています。

各地区の課題の整理にやや時間を要したことなどもあり、研究会自体は2021年2月に第1回を開催。その後、おおむね月に1回の頻度で意見交換を重ねています。研究会での議論は、「東京歴史文化まちづくり連携」の各団体にも見てもらい、フィードバックを得ながら進めていければと考えています。制度提案に向けた検討体制なども整えつつあり、今後、研究助成への応募等も視野に入れながら、歴史文化まちづくりの現場に貢献できるように取り組んでいきます。

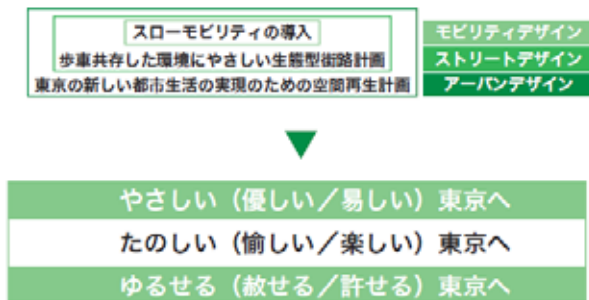
■各地区の課題の概要

地区	課題等
神保町	<ul style="list-style-type: none"> 指定容積率700%、地価が高く、公租公課、相続税の負担が重い 単独建替えは建設費の借入金返済が長く重い 共同建替えも高い資料負担。街並みが途切れる。容積移転？ 駐車場設置義務。表通り沿いに駐車場の出入口の創出が想定
月島・佃島	<ul style="list-style-type: none"> リノベーションと再開発のせめぎ合い：都市再生特別措置法（特区制度）が強すぎる きめ細かい計画・地区指定を 街並み誘導型地区計画を活かす 若者の創意工夫を後押しするような制度を 台北・迪化街のような容積移転制度（通隔地への容積移転）
神楽坂	<ul style="list-style-type: none"> 開発圧力と投機的事業者の参入、これに伴う客質・地価の高騰、地元要望に耳を傾けない都市計画の強行、担い手の高齢化や事業承継問題など、ハード・ソフト両面から懸念を寄せられている状況 適切な法制度の運用：路地界隈の保全継承（接道条件や道路斜線の緩和等）、ジェントリフィケーションへの対応（地区計画等も含む適切な用途容積）、表通りの街並み景観のガイドライン（規範）、都市計画道路拡幅への対応（断面構成の見直し、沿道まちづくり計画の充実等）など
文京（たてもの応援団）	<ul style="list-style-type: none"> 文化財であっても個人、民間での維持管理は負担が大きい 収支バランスの取れる活用の提案が必要。文化的価値を損ねず、かつ今後は弾力的な活用を取り入れたい 税制、各種法制度の勉強（例えば、文化財保護法はこれまでの「保存」重視から「活用」重視へ改正） マンパワーの確保、スムーズな世代交代
文京区（文京建築会ユース）	<ul style="list-style-type: none"> （鉄道、長屋や倉庫などに）興味を持っている方、活用したい方が増えているが、開発の勢いに間に合わない。手放す前に一度ワークショップ設ける仕組みが必要 活用が増える中、老朽化した建物への助成金や支援制度が必要
本郷	<ul style="list-style-type: none"> 街のキオクのアーカイブ、物件の振り出し、価値ある物件の保全、空き物件の活用、担い手探し・プレイヤーづくり、組織づくり 積極的な空き店舗等の利活用・改修を目指す

地区	課題等
根津	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して遊べる時に（子どもたちの故郷、原風景） 町のにぎわいを取り戻したい 多世代・新旧住民の交流の場（若者たちの居場所、役割） 町の魅力の再発見・発信
谷中	<ul style="list-style-type: none"> 面的・総合的な文化資源保全活用の仕組みとエリアがない（法的ネックを解消できる地域指定と制度運用が必要） 防災や道路交通のため、歴史的建物や路地を残しにくい 相続などで物件売却でしか対応できない局面をしのぐ資金調達や取得主体の仕組み 文化資源を守り活かす担い手を増やす 単発の補助金でなく、自ら運営する人を増やして持続的な文化資源環境をつくる
向島	<ul style="list-style-type: none"> 地権者の地域からの流出→土地・家屋の売却（文化資源の消失） →狭小マンション・過密建売（負のスパイラル） 災害（地震・水害）への対応 生活・仕事の見える寛容な下町コミュニティのあり方
品川宿	<ul style="list-style-type: none"> 再開発圧力が高い（天空率による高層化促進） 再開発系の都市計画決定等の案を民間に任せすぎている（開発利益者の営業行為としての計画案作成、代替案もない） 医療福祉を支える地域包括社会資本として、商店街の価値を共有できていない 住民主体でまちづくりを考えるためのプロフェッショナル支援 古い木造建物を活用するためのプロジェクト投資等の施策の充実
千住宿	<ul style="list-style-type: none"> 世代交代や開発により、魅力はあるが文化財の基盤には満たない古い建物（古民家、蔵等）が急速に消失
葛飾柴又	<ul style="list-style-type: none"> 文化的景観に選定されたことにより休眠不動産が動き出し、投資型や消費型不動産事業は発生 文化的景観地区を分断する都市計画道路の事業化 文化的景観保存計画が不十分で、今までの住民主体型のきめ細かい景観保全が踏襲されていない 地権者・住民も文化的景観への理解や活用アイデアが不十分（専門家による支援が必要）

構想案の概要

構想案をもとに様々なステークホルダーとの意見交換が進行。ポストコロナ以降の都市デザインや都市生活像について様々な意見を頂戴し、それらを踏まえ構想案のさらなるブラッシュアップを進めている。



「隅田川と上野の森をつなぐ緑の浅草通り再生計画」

→より地域の特性に根差した計画へ

地域の課題を解決し、そのエリアの持つ可能性を引き出す計画へとブラッシュアップを進める。ポストコロナを視野に入れ、新たな都市生活や地域経済の可能性を提示することを目指す。

モビリティ計画

- スローモビリティの導入：TTT 上野浅草線の敷設
 - ・緑陰を貫通するスローモビリティ（トラム）の導入
 - ・歩車共存の街路公園と交通分担とモビリティの連携
 - ・東京の2大観光地（上野・浅草）の接続

街路計画

- 浅草通り Boulevard 計画
 - ・緑と水辺をつなぐ都市内の緑の軸線の挿入
 - ・公園街路（ブルヴァール）の挿入によるエコロジカルコリドー

都市デザイン計画

- 浅草通り沿道街区の再生計画
 - ・並木沿道街区沿いの建物更新
 - ・リノベーションなどの事業によるグランドレベルの賑わい創出
 - ・新規住民と旧住民 / 海外旅行者などの交流

第3回ラウンドテーブルの開催

第3回となるラウンドテーブルでは、トラムそのものが、都市文化や生活文化にもたらす価値について着目。有識者をお招きし、新たな都市文化を育み東京を再生させる糸口として、トラムやTTT構想の持つ可能性について議論を行った。

【登壇者】 敬称略

- 今和泉隆行（地理人）
- 田中元子（グランドレベル代表）
- 辻泉（社会学者）
- 中島伸（東京都市大学）
- 中村文彦（横浜国立大学）
- 原武史（政治学者）
- 吉見俊哉（東京大学）：司会

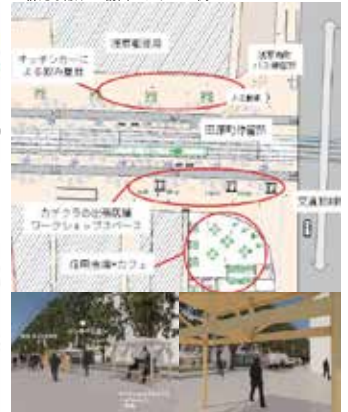
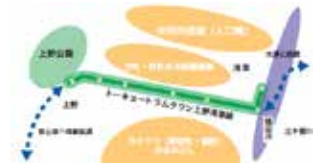


▼浅草通り計画の全体イメージ



▼コンセプトダイアグラム

▼TTT導入をきっかけとする新たな賑わい創出のプランの例



▼地域ごとの特性を活かしたエリアプラン（例）



2021年度の活動について

策定された構想案をもって関係各所へのアプローチを継続。また、今年度はタウンミーティングなど、地域との意見交換の場を作っていくことを重視して進める。地域との議論を通じ、TTT計画に生活者の声の反映していくことを目指す。

企画・運営メンバー <2021年4月時点>

中島伸（東京都市大学）[座長]
安ウンビョル（東京大学大学院）
木越純（バンクオブアメリカ）
北村秀哉（東京電力）
島裕（日本経済研究所）
田中元子（株グランドレベル）
谷口晋平（博報堂）
玉置泰紀（KADOKAWA）

辻泉（中央大学）
橋本健史（403architecture）
藤山龍太郎（国立国会図書館）
柳与志夫（東京文化資源会議事務局）
吉見俊哉（東京大学）
三浦誌乃（横浜国立大学）
鷲尾和彦（博報堂）
渡部裕樹（日建設計総合研究所）

プロジェクト概要

浅草・銀座・新宿・渋谷……東京には、各時代を象徴するまちがありました。戦後、電気街として復興を遂げた秋葉原は、90年代後半からオタク文化の勃興と共にまちの特異性に注目が集まるようになると、00年代以降は時代を象徴する街として日本のみならず世界中から人々を引き寄せるようになりました。

10年代以降は、大規模な再開発事業が完成し、インバウンド観光客を見据えて複数のホテルが進出してくるなど秋葉原の空間に新しい変化がみられました。また、オタク文化に関連しても、新たなライブエンターテインメントであるe-Sportsに関連する施設が増えたりしています。しかし、まちについてのイメージは、依然として00年代に成立したものを打破できておらず、空間の変化に伴った新たなビジョンも提示されていない印象を受けます。

こうした変化の中にあるにも関わらず、まちとして将来を見据えた新たなビジョンが提示できていない状況に対する危機感を持ち、それでも秋葉原が持つポテンシャルを信じて「広域秋葉原作戦会議」プロジェクトは発足しました。本プロジェクトでは、秋葉原の「辻」的性質に注目します。江戸時代からの歴史に目を向けると、秋葉原は周囲との深い関係性の中に生まれたまちでした。ヒト、モノ、コト（情報）を通じて周囲の文化が集まってくる交差点、すなわち「辻」として機能しているまちが秋葉原なのです。

そこで本プロジェクトでは、地理的にも意味的にも狭義の秋葉原に止まらず、秋葉原と周囲のまちを1つの広域エリア「Greater Akiba（グレートアキバ）／広域秋葉原」として捉え、エリア全体の歴史と現状を踏まえながら、まちの進化と将来像を検討することにしました。秋葉原にある多種多様な文化資源の把握と、それらを生かした新たなまちの未来像の提示を行っていきます。

座長：庄司昌彦（武蔵大学教授）

PM：菊地映輝（国際大学 GLOCOM 研究員・講師）

井上奈智（国立国会図書館）



2020年度の主たる活動

2020年度は新型コロナウイルス流行により、対面での活動に制約が出た年でした。広域秋葉原作戦会議プロジェクトは、オンラインでの取り組みに注力しつつ、感染対策を徹底しながらリアルでの取り組みも一部行うなどハイブリッドな活動を実施しました。

2020年度の主な活動（定例会議は除く）

2020. 5月	【秋葉原応援緊急特番】 「#SaveYourAKIBA」をオンラインで放送
7月	ひじりばし博覧会にて「ひじりばし放送局 Greater Akiba.TV 秋葉原の未来を語る鼎談ほぼ5本スペシャル」をオンラインで放送
8月	オンライン番組「広域秋葉原放送局（ABS）」開始 有志で都市計画マスタープランオープンハウスの視察を実施
9月	マニフェスト 2.0 作成
11月	ノーガホテル 秋葉原 東京で有志にて合宿開催
12月	広域秋葉原放送局放送終了
2021. 1月	「秋葉原応援プロジェクト ~DRAW MY AKIBA~」への神田浮舞台イラストの応募

ここからは2020年度の活動をジャンル別に整理してご紹介します。

定例会議の開催

秋葉原に関係するステークホルダーや有識者を招いた定例会議を月に1回のペースで実施しています。定例会議では、広域秋葉原エリアの情報を交換するとともに、多角的な視点から議論を行っています。またプロジェクトの活動方針についても定例会議で決定しています。今年度の大半はZoomを使用したオンラインでの開催となりました。



オンラインイベントの実施

新型コロナウイルスにより対面での活動が制約される中で、オンラインイベントを開催しました。5月には、コロナ禍で苦しむ秋葉原の現状を紹介し、今後の街のあり方を検討する「#SaveYourAKIBA」という番組をYouTube Liveを使用して生配信しました。また7月に開催されたひじりばし博覧会でも異なるテーマで5本鼎談を企画し、ネット配信を行いました。



オンライン番組の配信

オンラインイベントを実施していく中で、プロジェクトメンバーにノウハウと自信が蓄積されたこともあり、2020年度は定期的にオンライン番組「広域秋葉原放送局（ABS）」を配信することも行いました。秋葉原に関わる様々な人・組織の声を秋葉原内外に届けることで秋葉原についての新たな議論の喚起やコミュニティアーカイブの作成を目的に、株式会社全9回実施しました。放送は現在もYouTube上で視聴することができます。



リアルでの活動

ここまで紹介した通り、2020年度はオンラインでの活動を積極的に行いましたが、コロナが一時的に落ち着いた夏の終わりから秋にかけてリアルでの活動も実施しました。広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、2019年度に千代田区の進める都市計画マスタープラン改定に独自の提案をしましたが、その活動の延長として、千代田区の主催する都市計画マスタープランオープンハウスの視察を有志で行いました。また11月には、秋葉原に新しくオープンしたノーガホテル秋葉原東京で有志による合宿を行い、夜の秋葉原のスタディツアーや神田明神で開催される朝のラジオ体操への参加を行いました。

同じく11月には、オンライン番組「広域秋葉原放送局」の収録を、上野仲町通り商店街で開催されていた「上野・湯島ナイトウスタンド&テラス」で行いました。



『秋葉原応援プロジェクト ~DRAW MY AKIBA~』へのイラスト応募

2019年度の千代田区都市計画マスタープラン改定への独自提案では神田川の未来のイメージとして「神田浮舞台」というイラストを作成しました。このイラストを、コロナ禍で苦しい秋葉原を絵で盛り上げようという「秋葉原応援プロジェクト ~DRAW MY AKIBA~」に応募し、プロジェクトのウェブサイトなどで紹介されました。



マニフェスト 2.0 の作成

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、プロジェクトの活動目標を掲げた「マニフェスト 1.0」を2018年9月に発表し、それに従う形で活動を行ってきました。発表後の約2年という歳月の中で、プロジェクトとして数多くの活動成果を生み出すことができ、また広域秋葉原エリアを取り巻く社会状況も変化してきました。そこで、この2年間の活動成果を踏まえ、改めてプロジェクトとして広域秋葉原エリアをどのように捉え、どのように向き合っていくのかを示す新たなマニフェスト 2.0を作成し発表しました。

活動概要および今年度の活動

ほとんど活用されていない夜間の上野公園の利活用を中心に、その周辺地域と密接に連携しながら、文化資源区が保有する歴史性と多様性を持った文化資源の発掘・保全・活用を展開していくため、2018年10月に上野ナイトパーク構想会議を立ち上げ、2019年2月に「上野ナイトパーク構想」を発表しました。

その後、東京文化資源会議及び賛同する賛助会員社から成る企画委員会において構想の具体化を検討し、モデル事業の意味をもつ「上野ナイトパーク 2020 spring」を文化庁の助成金を得て上野公園で2020年3月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期となりました。しかし、企画・準備過程を通じて東京都庁、上野公園管理事務所、上野公園内の美術館・博物館等各施設との協力関係も構築することができました。

今年度は、構想に基づく具体的対応を検討・実施し、それらを本格的に実現するため、東京文化資源会議をはじめ上記の趣旨に賛同する関連諸団体（企業、各種団体等）が集まり、上野公園PMOの設置に向けた推進力となりうる連携組織「上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）」を2020年8月に設置しました。

また、文化庁の令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託を受け、上野公園の夜間活用によるアートインスタレーションや周辺地域と連携したツアー事業などを展開する「上野ナイトパーク 2021 winter」を推進していましたが、新型コロナウイルスの流行に伴う緊急事態宣言の発出に伴い、公園利用の停止措置などが行われ、事業の修正を余儀なくされました。

しかし、そうした状況のなかでも、東京国立博物館や寛永寺と連携したモニターツアー事業の実施や、国立科学博物館研究員をゲストにしたポッドキャストコンテンツの制作、上

野公園の歴史や文化的な多様性を発信しながら、同コンソーシアムの活動を推進するための情報基盤としてのウェブサイトの開設などを行いました。

コンソーシアムの設立および今後の展開に向けた様々な実証を行ったことを受け、2021年度は具体的な事業創出および関連機関や各文化施設等との連携を密に図りながら、活動を展開してまいります。

上野ナイトパークコンソーシアム設立宣言

2020年7月24日に開催された「ひじりばし博覧会 2020」にて、公開シンポジウム「上野ナイトパーク宣言 - 上野公園の可能性」と題したシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムでは、「上野ナイトパーク構想」や「上野ナイトパーク 2020 spring」で目指そうとしたもの、それをさらに発展させていくために何をやるべきか、これからの上野公園の可能性を論じるとともに、その推進母体としての「上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）」の立ち上げを宣言する場となりました。

<プログラム>

- ・ **上野ナイトパーク構想の概要と「上野ナイトパーク宣言」**（吉見俊哉、東京大学教授、東京文化資源会議幹事長）
- ・ **上野ナイトパークの可能性**（江口晋太郎 東京文化資源会議事務局次長）
- ・ **上野公園でこれからやりたいこと、やれること**（パネルディスカッション）

パネリスト：池田伸之（JTB 東京交流創造事業部長）、上山信一（慶応義塾大学教授）、小川滋（電通シニア・コンサルティング・マネージャー）、杉浦久弘（文化庁審議官）、玉置泰紀（KADOKAWA2021年室担当部長）、吉見俊哉：司会



上野ナイトパークコンソーシアムウェブサイト開設

文化庁の令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託を受け、「上野ナイトパーク 2021 winter」および各文化施設や上野周辺地域と連携したツアー事業などを展開予定でしたが、新型コロナウイルスの流行に伴う緊急事態宣言の発出によって、事業の修正を行いました。そのなかで、同コンソーシアムの活動コンセプトの発信や上野地域がもつ多様な歴史的文化的な地域資源を発信する情報基盤としてのウェブサイトを開設しました。

また、情報発信の一つとして、音声配信コンテンツであるポッドキャストを開設。各文化施設の研究者や学芸員らをゲストに、10代モデレーターと対談するコンテンツを発信しています。第一回目として、国立科学博物館研究員の矢部淳に、開催中の企画展「メタセコイア展」のお話や研究者としてのこれまでの活動について話をしました。

今後、同ウェブサイトや関連の SNS 等を通じて、同コンソーシアムの活動のみならず、上野公園の魅力などを発信していきます。



2月12日および19日にモニターツアーを開催

文化庁の令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託に伴うモニターツアーを2021年2月12日に実施しました。

モニターツアーという形のもと、ご協力いただいた東京国立博物館を舞台に、ふたつのナイトミュージアムツアーを企画しました。コロナ禍に配慮し、感染予防対策を徹底させたうえで人数を限定しての開催となりましたが、今後に向けて大きな手ごたえを得ることができました。

2月12日は、建築家と巡る「にほんのたてもの」ツアーと題し、東京大学名誉教授の藤井恵介さん、竹中工務店で伝統建築に関わる上田忠司さんの解説をうけながら、東京国立博物館表敬館で開催中だった「日本のたてもの」展を堪能しました。

2月19日は、トーハク×寛永寺、仏像等の文化財夜間鑑賞ツアーと題し、東叡山寛永寺で執事を勤める石川亮岳さん、東京国立博物館で日本彫刻を専門とする学芸員の皿井舞さん、お二人それぞれの視点からの解説と共に仏像などの文化財を見たのち、レクチャーを行いました。

活動記録

2020. 7/24 : 上野ナイトパークコンソーシアム設立宣言 @ひじりばし博覧会 2020

8/11 : 上野ナイトパークコンソーシアム設立

12/16 : 東叡山輪王寺門跡門主・浦井正明寛永寺貫主と吉見幹事長による対談 (Tcha13 号特集収録)

2021. 2/12 : 東京国立博物館企画展「日本のたてもの展」モニターツアー (ゲスト: 藤井恵介東大名誉教授、竹中工務店 上田忠司氏)

2/19 : 東京国立博物館夜間拝観モニターツアー (ゲスト: 東京国立博物館学芸員 皿井舞氏、寛永寺執事 石川亮岳氏)

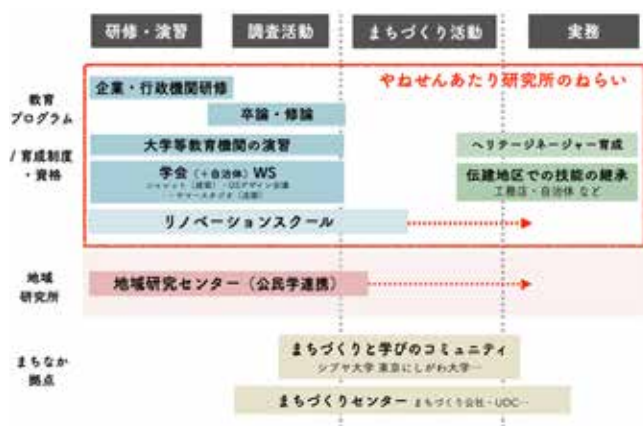


メンバー (50音順、敬称略)

- ・東京文化資源会議 (事務局)
- ・朝日信用金庫
- ・合同会社 quod
- ・株式会社 JTB
- ・株式会社大丸松坂屋百貨店
- ・株式会社竹中工務店
- ・株式会社丹青社
- ・株式会社電通
- ・株式会社トーキョーベータ
- ・野村不動産株式会社

プロジェクトの背景と目的

文化資源会議がその活動目的の1つとして掲げる、「文化資源を活かし地域に貢献できる専門家、実務家の地域での育成」が持続発展的に実現するためには、その基盤として、地域の中に研究、活動を蓄積し、情報を共有するための拠点が必要である。やねせんあたり研究所が目指すものは、そのプラットフォームとしての「地域立」の独立した研究機関である。やねせんあたりとは、谷根千（谷中、上野桜木、根津、千駄木、池之端）と下谷、根岸、弥生、下谷、日暮里などの周辺地域をさす。「研究所」では、大学や研究室、企業を超え、研究や活動のアプローチや成果を共有すること、文化資源を支える実務、日常生活と研究・教育活動とが交わり、新しい価値を生み出す場を作り出すことを目標としている。



まちなかでの研究、人材育成活動と本プロジェクトの対象

第1回 やねせんあたり研究活動勉強会の実施

本年度は、7月18日に第一回やねせんあたり研究活動勉強会として、やねせんあたりを活動拠点とする3名（谷中 椎原晶子氏・根津 栗生はるか氏・本郷 三文字昌也氏）が、当該地域を対象とした研究、設計プロジェクトの経験者、あるいは、地域で実践的な活動を行う企業や団体にインタビューする、配信型の勉強・交流会を実施した。講演は、根津エリアのまちづくり活動の拠点でもある根津藍染大通りを発端とした遊戯道路の卒業研究・修士研究から、トークイベントや「芸術銭湯 + Cafe 宮の湯」などの地域活動に展開している内海皓平氏に依頼し、研究発表や論文集からはわからない、活動のきっかけや対象の魅力、調査・研究の手法、地元の関係者との関係の構築の実情などを伺う場として設定した。

勉強会には、研究活動の受け手となった地元の関係者も含めて多様な主体が参加し、それぞれの立場からの活動に対する関わりや、展望についての意見交換が行われた。



第1回 やねせんあたり研究活動勉強会の実施の様子

今後の展開

プロジェクトでは、文化資源会議と連携しながらこのような勉強会を、定期的に開催することを通じ、1) 研究・活動の公式な成果とともに、地域との関わり方を合わせて地域に蓄積すること、2) これを基盤としながら、建築、都市、芸術、文化、福祉、教育、医療など、様々な分野の視点からまちに取り組む方のネットワークを構築していくこと、さらには、3) 地域の中に地域研究とその還元を行う拠点を設けていくことを目指している。一つは、大学の卒論や修論のスケジュールを踏まえた情報共有・発表会の機会（夏頃に調査項目・対象・手法に関する情報交換会、年度末に地区ごとでの成果発表会など）、もうひとつは、地域で実践研究する人たちの研究・活動発表の機会である。「地域立研究所」を成り立たせるためには、地域のまちづくり実践団体、様々な分野（建築・不動産、医療福祉、子育て、出版編集、芸術文化等）で地域に関わる企業、いくつかの大学研究室の参画と連携が必要であり、両者を組み合わせながら、プロジェクトの目標として提示した地域立の研究所の実現を目指し活動を行うことを予定している。

第1回 やねせんあたり研究活動勉強会アーカイブ：
<https://youtu.be/fbvGNU9Z8h4>

Facebook：
<https://www.facebook.com/yatarilab>

活動概要

神田駅エリアでは昨今の都心回帰の流れで大小様々な開発圧力が高まる中で、地域にとって公共性や納得性の高い都市開発やまちづくりが求められてきた。千代田区は警察通り沿道整備協議会を立ち上げ、共通する一つのイメージの神田ではなく、小さな魅力的で個性的なまちまち、かわいを捉える必要性を認識してきた。開発事業者はそれぞれ再開協議組合を中心に主に町会と議論を重ね合意を伴う開発を進めている。

このような背景のもと、東京部か資源会議・神田まちづくり懇談会では、大学関係者が中心となり地元の納得感のある開発を進めてもらうため、かわいの特徴を捉える指標の開発を進めている。

(1) 打ち合わせ等実施記録

神田まちづくり懇談会は、幹事会にて協議会で議論すべき内容を協議し、懇談会には事業者や町会の方に参加いただき、広く議論を進めている。また幹事会・懇談会以外に個別の課題を詳細に検討するワーキンググループも随時開かれている。

- 2020年4月13日 幹事会
- 2020年5月11日 幹事会
- 2020年6月2日 幹事会
- 2020年6月8日 ワークショップ①（懇談会）
- 2020年6月15日 幹事会
- 2020年7月24日 ワークショップ②（ひじりばし博覧会）
- 2020年10月20日 幹事会
- 2020年11月11日 幹事会
- 2020年12月9日 幹事会
- 2021年1月13日 幹事会
- 2021年2月9日 幹事会
- 2021年3月11日 幹事会

(2) ワークショップの実施

懇談会およびひじりばし博覧会で計2回のワークショップ（オンライン・ハイブリッド）を実施し、ウィズコロナ/ポストコロナの神田のまちづくりを考える機会を得た。懇談会メンバー（神田周辺の開発事業者、大学関係者）によるワークショップ（2020年6月8日・オンライン）では、コロナ禍の神田での開発の進捗、今後の不動産開発のニーズ、働き方の変化、神田のこれからを議論し、また、ひじりばし博覧会2020で実施したワークショップ（7月24日）には町会関係者、開発事業者、大学関係者、学生が参加し、神田で生活する中で感じた新型コロナウイルス感染症の影響、飲食店や公共空間の変化、働き方の変化、これからのまちづくりのあり方を検討した。7月24日のワークショップはZoomによるハイブリッドミーティングを基本としながら、Googleスライドをオンラインで共有しオンサイトとオンラインの意見の可視化も実現した。

■ワークショップ①

日時：2020年6月8日
 参加者：神田周辺の開発事業者、大学関係者 計30人
 形式：オンライン
 内容：コロナ禍の神田での開発の進捗、今後の不動産開発のニーズ、働き方の変化、神田のこれから

■ワークショップ② ウィズコロナ/ポストコロナ 神田のまちづくりを考える ～現場とオンラインによるワークショップ～

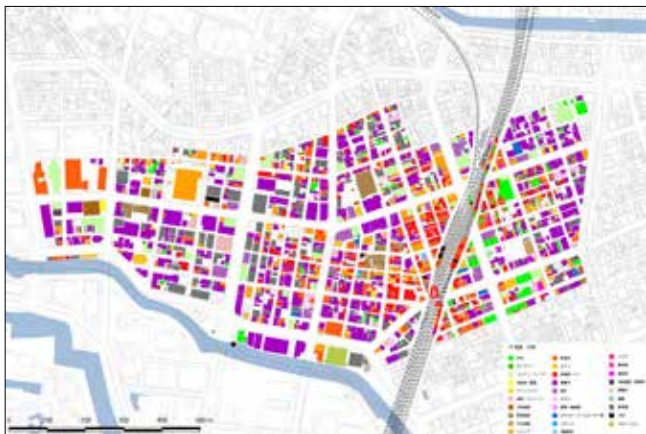
日時：2020年7月24日
 参加者：町会関係者、開発事業者、大学関係者、学生、神田に関心のある方々 計45人
 形式：オンラインとオフラインのハイブリッド
 内容：神田で生活する中で感じた新型コロナウイルス感染症の影響、飲食店や公共空間の変化、働き方の変化、これからのまちづくりのあり方



(写真1 7月24日のワークショップの様子)

テーマ	街の人の印象、影響の可能性	具体的意見
飲食店、公共空間	街から人が減った	学生や若者がほとんどいない、お昼時のワーカーが激減
	厳しい経営の中で閉店した老舗も	平日のランチタイムで並ばなくなった、神保町の老舗が閉店
	飲食店の感染対策が進む	テイクアウトの開始、ドアがオープンになり中が覗きやすくなった
	公共空間、街路に活路を見出せるのでは	路上飲みができるといい風景ができる、住民を呼ぶ工夫が必要
オフィス、働き方	オフィスワーカーの減少	在宅ワークが長く続いておりオフィスや神田に行く機会がほぼない
	オフィスに求められるものの変容	小規模オフィスが空いた、シェアするようなオフィスが望まれている
	家に近い作業場所、サードプレイスに注目	在宅ワークでは気持ちの切り替えが難しく家とは別の空間が欲しい
住空間としての神田	新規住民の重要性	増加するマンション住民とコミュニケーションをとるのが難しい
	神田スクエアは新たな繋がり場へ	芝生広場は子ども連れで賑わう、サミットは利用者急増
その他	大きな流れとして学生の姿の減少	外国人労働者の増加と共にアルバイトをする学生が激減している
	職住近接のサステナブルのまちに神田はなれるのでは	住空間とミックスしているから飲食等の需要は残るのでは

(図1 ワークショップで話された内容)



(図2 ハイブリッドワークショップでの意見整理の様子)



(図4 指標の可視化の例2 用途の表現：アイソメ図)

(3) 神田かいわい指標の開発

神田かいわい指標は、神田のまちまちそれぞれの界隈らしさを規定する指標を提示し、それらを読み取ることで、神田のまちまちなちづくりの方針を考えることができることを目的としている。具体的な3地区を対象として、①地区の将来イメージ、②まちづくりの展開予測、③方針に対応する指標イメージ、④指標の可視化、⑤(地区によらない)汎用的な指標一覧、で構成されるものである。

神田まちづくり懇談会で検討した「神田かいわい指標」は警察通り沿道整備協議会まちづくり部会でも活用されることを検討している。

(4) 卒業論文・修士論文としての成果

神田まちづくり懇談会の議論も参考にして次の卒業論文および修士論文が執筆された。時丸耕太さん、岡崎達さんの両氏は当懇談会の運営にも多くのご協力をいただきました。ありがとうございました。

- 時丸耕太「コロナ禍における都心複合市街地の様相 - 神田駅西口エリアを対象として -」, 東京大学大学院都市工学専攻 2020 年度修士論文
- 岡崎達「都心商業業務・住宅混在地域における総合設計制度に基づく公開空地の実態 - 神田錦町周辺地域2 事例の計画・デザイン・利用実態の分析 -」, 東京大学工学部都市工学科 2020 年度卒業論文



(図3 指標の可視化の例1 1階用途)

活動概要

東京文化資源会議の各PTによる活動報告や文化資源区における発掘・保全・利活用を推進していくため、文化資源に関わる様々な取り組みを展示やワークショップなどの体験コンテンツや、セミナー、シンポジウム、そして楽しいお食事コーナーなど、幅広い催しである「ひじりばし博覧会」を2020年から開始することとしました。

遊び、学び、体験し、見て、食べる。一日かけて文化資源を楽しめる博覧会として、今後の継続的に展開していきます。2020年は、7月24日にソラシティカンファレンスセンターを全体で活用し、終日かけて様々な催しが開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの流行を鑑み、また、東京都による外出自粛要請を受け、現地による展示やワークショップは全面中止とし、フォーラムやシンポジウムなどをすべてオンライン配信へと切り替えることにいたしました。

プログラム：ひじりばし博覧会 2020 in ソラシティカンファレンスセンター

日時：2020年7月24日(金・祝) 11時-20時
場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
(東京都千代田区神田駿河台 4-6)

以下、各プログラムの概要です。



・基調講演「ポストコロナ日本を甦らせる全国文化創生区 2030 ビジョンー 2020 年からの再出発」(吉見俊哉、東京大学教授、東京文化資源会議 幹事長)

都市の編みなおしを、東京文化資源区構想がどのように実践してきたか、その先にはいかなる新しい都市の歴史の発見が見通せるのかを、東京に焦点を当てながら提示していきます。

時間：11-12 時

・ラウンドテーブル「鉄道都市東京 ～想像を共有するモビリティと都市～」

新たな都市文化を育み、東京を再生させる糸口を作り出すための鉄道やトラムの可能性について、有識者の方々と語り合います。

時間：13-15 時 (zoom によるウェビナー開催)

・『密に交わる空間』をめぐるラウンドテーブルー(上野) 歓楽街・繁華街で起きていること、起きうること

つい数ヶ月前まで、歓楽街や繁華街の「三密」は都市の魅力の源泉であり、都市文化を育む一つの場でした。特に「密に交わる空間」は、まちに人なつかしさを求める人々にとって、欠かすことのできないサードプレイスとなっていました。しかし、現在、歓楽街、繁華街の風景は寂しい一方、毎日恒例の感染者数報道は、歓楽街や繁華街での人々のふるまいの身勝手さが指摘されています。本ラウンドテーブルでは、東京文化資源会議上野スクエア構想検討委員会が活動を続けてきた上野を主な対象として、『密に交わる空間』をめぐる、語り合います。

時間：14-16 時 (zoom によるウェビナー開催)

・「東京歴史文化まちづくり連携」KICK OFF 宣言 今こそ 東京文化資源地区連携を

歴史文化まちづくりに取り組む各地区の代表者に、各地区のまちづくりについてプレゼンいただきつつ、歴史文化まち



づくりで目指すもの、直面している課題（困っていること）、課題に対応した独自の取り組みの工夫など、各地区の状況を横並びで眺めながら、東京都区部で歴史まちづくりに取り組む上での共通的な目標像や課題等を整理、共有するための場です。

時間：14-17 時

・「ひじりばし放送局 Greater Akiba.TV 秋葉原の未来を語る鼎談ほぼ5本スペシャル」

秋葉原の街に関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広域秋葉原の『ミライ』について議論します。

時間：13 時 -16 時 15 分

・公開シンポジウム「上野ナイトパーク宣言 - 上野公園の可能性」

上野公園及びその周辺地域の夜の活性化を提言した「上野ナイトパーク構想」（2019年2月）に基づき企画した「上野ナイトパーク 2020 spring」を軸に、本シンポジウムでは「上野ナイトパーク 2020 spring」でめざそうとしたものが何であり、それをさらに発展させていくために何をやるべきか、これからの上野公園の可能性を論じるとともに、その推進母体としての「上野ナイトパークコンソーシアム」の立ち上げを宣言する場です。

時間：17-19 時

・ウィズコロナ / ポストコロナ 神田のまちづくりを考える 現場とオンラインによるワークショップ

神田かいわいの個性やまちづくりの取り組みを評価するための指標づくりを進めています。検討中に発生した COVID-19 は人々の生活スタイルを変容させ、神田の街にも無視できない大きな影響を及ぼしました。では実際にどのような変化が見られたのか、またそれを踏まえて今後神田はどうなっていくべきなのかを考えていきます。

時間：18-20 時



主催：東京文化資源会議

共催：sola city Conference Center

後援：千代田区

協力：デジタルハリウッド大学 / 大学院、お茶ナビゲート、Akiba.TV 株式会社、アスキーデジタル総研



文化資源プロデュース塾（P塾）の設置

東京文化資源会議は、都心東北部の地域社会の共同性をその土台としているが、その活動はつねに、一方では財・サービスの売買という市場性、他方では大学に象徴される知識・思想の公共性という側面も重視してきた。会議の活動は、地理的・技術的・制度的な制約の下でこれらの三側面の繊細なバランスの上に成り立っている。あえて「文化資源」と呼ぶ所以である。これまで多様なプロジェクトが重層的に展開する過程で様々なアイデアやスキルが共有され、融合し、新しい試みも生まれてきた。

これらの経験を踏まえ、2019年秋、『崖東夜話』（2020年10月27日開催）の準備が始まったことを契機として、文化資源の継承・革新のための人材育成の枠組みの検討が始まった。そして、2020年5月27日の幹事会で会議の恒常的な組織として「文化資源プロデュース塾」（P塾）の設置が承認され、第一期は『崖東夜話』の動画撮影・配信・蓄積をメインテーマとして、以下のような構成で開催された。



『文化資源プロデュース塾 2020年 崖東夜話編』

開催目的

1. 東京文化資源会議の今後展開可能な発展的ワークショップのプロトタイプとする
2. 『崖東夜話』当日の映像配信スタッフの募集と養成
3. 学生・院生・社会人の今後の学問・研究の発信手段としての映像活用の促進

体制

- ・ 塾頭：中村雄祐（東京文化資源会議幹事・東京大学教授）
- ・ チーフプロデューサー（CP）：角田陽一郎（バラエティプロデューサー）

募集（詳細：<https://gaitou-yawa2020.peatix.com/>）

当初は全6会場での撮影を想定し、7月より募集人員15名～20名で参加料（開催必要経費に充当）を聴取する形で募集を開始した。しかしながら、Covid-19感染症拡大を受け、募集人数を減らし、塾自体も一部をオンラインに変更、参加料も半額に変更した。さらに、講義の一部をオンライン有料配信し、その後、YouTube上で無料公開した。

変更後の参加料：一般15,000円、学生7,500円。オンライントークイベント：1,000円。

スケジュール

- | | |
|--------|---|
| 9月1日 | プロジェクトの企画の立て方・演出の仕組み |
| 9月15日 | プロジェクトの運営・プロデュースの仕組み
ゲスト講師：吉見俊哉 イメージ：写真1 |
| 9月29日 | プロジェクトの広報・PR・継続の仕組み
ゲスト講師：福井健策 イメージ：写真2 |
| 10月13日 | プロジェクトの演出やネット配信の仕組み
ゲスト講師：紀里谷和明 |
| 10月27日 | 『崖東夜話』にて映像制作と配信を実践：
動画配信の生中継と収録 イメージ：写真3,4 |
| 11月10日 | プロジェクトの編集とアーカイブの仕組み
ゲスト講師：大向一輝 |

参加者

- ・ P塾：塾生4名（全員、社会人）
- ・ オンライントークイベント：20:00～21:30@YouTube
申し込み人数：
9月15日：14人
9月29日：14人
10月13日：21人
11月10日：非公開

成果

- ・ P塾第一期は、計画通り、全日程を終了。
- ・ P塾オンライントークイベントの一部、および塾生が編集した『崖東夜話』の動画はYouTubeチャンネル「東京文化資源会議 T-Cha」で公開中。イメージ：崖東夜話：音のひびき
- ・ 11月10日のゲスト講師、大向一輝先生（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）が講義資料として東京文化資源会議のWikipediaページを作成。
<<https://ja.wikipedia.org/wiki/東京文化資源会議>>

2020 年度収支報告

東京文化資源会議一般会計収支報告（2021年3月31日現在）

収入の部

費目	内訳	予算	収入	差額
前年度繰越金		2,420,843	2,420,843	0
会費	賛助会員会費	9,850,000	10,600,000	750,000
	本会員会費	210,000	261,000	51,000
利子		0	42	42
返金等		0	14,300	14,300
総計		12,480,843	13,296,185	815,342

支出の部

費目	内訳	予算	支出	差額
事務局運営費	事務所賃料（光熱水道費を含む）	410,000	362,640	47,360
	備品等購入費	50,000	25,364	24,636
	スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）	3,700,000	3,232,180	467,820
	事務作業委託費	300,000	624,814	▲324,814
	交通費、電話料金、消耗品費等運営経費	400,000	270,312	129,688
	総会開催経費	300,000	120,699	179,301
	小計		5,160,000	4,636,009
全国文化資源連携ビジョン策定委員会運営費	運営委託費（委員等謝金、交通費、事務費等）	500,000	400,440	99,560
イベント開催経費	講師謝金、運営経費、会場費等	1,500,000	1,714,118	▲214,118
プロジェクトチーム等運営費	プロジェクトチーム運営経費	2,400,000	770,220	1,629,780
広報普及費	既存出版物増刷費	200,000	69,630	130,370
	パンフレット・チラシ等編集・作成費	500,000	500,320	▲320
	ニューズレター制作費	550,000	529,980	20,020
	ホームページ改修・運用費	100,000	14,995	85,005
	SNS関連広報費（事務委託）	550,000	550,440	▲440
	活動報告会（ひじりばし博覧会）実施経費	500,000	567,353	▲67,353
小計		2,400,000	2,232,718	167,282
企画会社設立経費		300,000	0	300,000
その他諸経費（会計監査謝金等）		100,000	67,540	32,460
予備費		120,843	0	120,843
総計		12,480,843	9,821,045	2,659,798

収支差額

2019年度繰越金額			3,475,140	
------------	--	--	-----------	--

東京文化資源会議特別会計1 収支報告（2021年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		1,015,251
文化庁補助金		5,636,773
P塾参加費	7名	134,376
利息		1
総計		6,786,401

支出の部

費目	内訳	支出
移管	特別会計2に移管	6,636,773
振込手数料	移管にともなう振込手数料	880
P塾謝金	第1回～第4回	90,000
振込手数料	謝金支払にともなう振込手数料	1,760
P塾参加費払い戻し	2名	30,000
振込手数料	P塾参加費払い戻しにともなう振込手数料	880
P塾会場費		14,000
振込手数料	P塾会場費振込手数料	440
総計		6,774,733

収支差額

2020年度繰越金額		11,668
------------	--	--------

東京文化資源会議特別会計2 収支報告（2021年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		10,269,341
移管	東京文化資源会議特別会計1より	6,636,773
融資	手貸実行	9,956,781
手貸利子払戻金		37,170
出資配当金		199
利息		51
総計		26,900,315

支出の部

費目	内訳	支出
手貸返済		14,600,000
IB法人手数料	2020年5月～2021年3月	12,100
振込	全7件（ナイトミュージアム委託事業経費）	8,568,972
振込手数料	振込手数料総額	4,840
総計		23,185,912

収支差額

2020年度繰越金額		3,714,403
------------	--	-----------

東京文化資源会議 2020年度会計監査報告

2020年度（2020年4月～2021年3月）の東京文化資源会議の事業執行及び財産の状況を帳簿その他の証拠資料の提示を受け監査した結果、いずれも適正に処理され妥当であることを認めます。

2021年4月19日

東京文化資源会議

監事 北岡 知子 

東京文化資源会議 2021 年度事業計画（案）

1. 上野関連プロジェクトへの集中的取組

以下の構想プロジェクトを連携させながら、将来的には統合して運用・発展させるための「上野グランド計画（仮称）」を策定する。その実現に向けて関係者との協議を行う。

①上野ナイトパーク構想（構想会議座長：青柳正規多摩美術大学理事長）

2020年7月に設立した上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）を中心に、上野公園ミュージアム等及び周辺施設との連携イベントを順次実施する。

②上野スクエア構想（PT 座長：中島直人東京大学准教授）

地元商店会等関係者と連携した活動を順次実施するとともに、上野スクエア全体をつなぐ仕組みづくりに取組む。

③湯島神田上野社寺会堂研究会（座長：吉見俊哉東京大学教授）

ハード面整備のための中長期ビジョンを策定する。昨年創始した共同イベント「崖東夜話」を定例化し、第2話を本年10月頃に実施する。地図ファブPTとも連携して、ソフト面・ハード面の両面で散策路の開発を行い、ツアーの実施と連動させる。社寺会堂塾第2期を開始する。

④トーキョートラムタウン構想（PT 座長：中島伸東京都市大学准教授）

2020年7月にまとめた構想をもとに、上野・浅草間の社会実験実施をめざして関係者との協議を進める。

⑤上野連携構想推進委員会（委員長：吉見俊哉東京大学教授）

関連プロジェクトの連絡調整を担う。

2. まちづくりに関する提案

以下の各プロジェクト（P）を推進するとともに、必要な連携を図り、まちづくり制度改革のための提案を行なっていく。

①リノベーションまちづくり制度研究会（座長：田村誠邦明治大学特任教授）

2020年7月に立ち上げた「東京歴史文化まちづくり連携」における協議・連携を推進するとともに、具体的なリノベーションまちづくりに資する制度提案（法規、資金、特区等）を関係各署に行なっていく。

②神田まちづくり懇談会（座長：小林正美明治大学教授）

新しい神田ブランドづくりに役立つ「神田かわい指標」を作成し、関係者へ提示・協議したうえで、実際の適用に向けて千代田区を含めた関係者への働きかけを行う。

③広域秋葉原作戦会議 P（座長：庄司昌彦武蔵大学教授）

歴史性と現況データを踏まえた「広域秋葉原」の将来象を提示するとともに、その具体化を図るため各種関係者との協議を進める。合わせて上野グランド計画との連動を図る。

④本郷のキオクの未来 P（座長：栗生はるか文京建築会ユース代表）

本郷地域における保全・記録の対象とすべきものの発掘・リストアップを進める。対象を選んで、保全・活用のためのまちづくりファンド等の適用を検討する。

3. 各プロジェクトチーム等の運営と関連イベント（オンラインを含む）の開催

① 3区文化資源地図ファブ P（座長：真鍋陸太郎東京大学助教）

各プロジェクトチームと連携して構築した地図アーカイブの活用事例を作っていく。

② スポーツ文化資源 P（座長：鈴木直文一橋大学教授）

これまで行ってきた各イベントをレビューするとともに、スポーツの文化資源化を図るため、「スポーツを遊べる」場をこの地域内で増やしていく。

③ 文化資源プロデュース塾（塾頭：中村雄祐東京大学教授）

各PTの活動内容とも連動させて第2期のテーマを設定し、塾生を募集する。

4. 広報普及活動

- (1) 『T-Cha』の発行（年4回）
- (2) 「ひじりばし博覧会2021」の開催（5月）
- (3) 社寺会堂共同イベント「崖東夜話・第2話」の実施（10月）

5. 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

6. その他当会議の目標を達成するために必要な事業

東京文化資源会議 2021 年度収支計画（案）

○収入

前年度繰越金 340 万円
本会員会費 3,000 円×70（団体・個人）= 21 万円
賛助会員会費 800 万円
（内訳：50 万円×10 団体+ 30 万円×10 団体）
調査研究業務委託費 30 万円

計、1,191 万円

○支出

事務局運営費 551 万円
事務所賃料（光熱水道費を含む） 3 万円×12 か月 = 36 万円
備品等購入費 5 万円
スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト） 350 万円
事務作業委託費 80 万円
交通費、電話料金、消耗品費等運営経費 40 万円
総会開催経費（年報編集刊行費等） 40 万円
イベント開催費 270 万円
ひじりばし博覧会 2021 運営経費 120 万円
崖東夜話実施経費 100 万円
その他シンポジウム等 3 回開催の講師謝金、運営経費、会場費等 50 万円
プロジェクトチーム等運営費 80 万円
プロジェクトチーム等運営費 10 万円×6 グループ = 60 万円
会場費 20 万円
広報普及費 265 万円
既存出版物増刷費 20 万円
パンフレット・チラシ等編集・作成費 50 万円
ニューズレター制作費（4 号分） 60 万円
ホームページ運用費 10 万円
広報業務支援委託（ニューズレター編集等） 55 万円
広報媒体費（PR タイムズ他） 70 万円
その他諸経費（会計監査謝金等） 10 万円
予備費 15 万円

計、1,191 万円

東京オリンピック文化プログラム推進に関わる 4 者協議会規約

(平成 28 年 5 月 9 日確定)

(名称)

第 1 条 本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

(目的)

第 2 条 本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

(協議会の構成)

第 3 条 本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる 4 者（以下単に「4 者」という。）をもって構成する。

- (1) 千代田区
- (2) 文京区
- (3) 台東区
- (4) 東京文化資源会議

(運営方針)

第 4 条 本協議会の運営方針は、4 者の協議によって決定する。

(事務所)

第 5 条 本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目 1 番地に置く。

(会議)

第 6 条 本協議会の会議は、4 者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

2 会議の議事は、4 者の協議をもって決する。

(事業等に係る経費)

第 7 条 4 者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、4 者で別途協議する。

(規約の改定)

第 8 条 本協議規約の改定は、4 者の合意をもって行う。

(事務局)

第 9 条 本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

(その他)

第 10 条 本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。

東京文化資源会議 役員名簿

2021年3月31日現在

会長	伊藤滋（東京大学名誉教授）
幹事長	吉見俊哉（東京大学教授）
顧問	青木保（前国立新美術館館長） 青柳正規（多摩美術大学理事長） 相賀昌宏（小学館社長） 小倉純二（日本サッカー協会最高顧問） 金澤正剛（国際基督教大学名誉教授） 高階秀爾（大原美術館館長） 竹内誠（江戸東京博物館名誉館長） 長尾真（京都大学名誉教授） 御厨貴（東京大学名誉教授）
幹事	太下義之（国立美術館理事・同志社大学教授） 小野道生（㈱都市計画設計研究所室長） 宇野求（東京理科大学嘱託教授） 片桐由希子（金沢工業大学講師） 栗原祐司（京都国立博物館副館長） 栗生はるか（文京建築会ユース代表） 小泉秀樹（東京大学教授） 小林正美（明治大学教授）：副幹事長 沢辺均（ポット出版社長） 椎原晶子（NPO たいとう歴史都市研究会理事長） 島裕（公益財団法人中曽根康弘世界平和研究所主任研究員） 庄司昌彦（武蔵大学教授） 鈴木直文（一橋大学教授） 数藤雅彦（弁護士） 高野明彦（国立情報学研究所教授） 玉置泰紀（㈱KADOKAWA エグゼクティブプロデューサー） 田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役・明治大学特任教授） 中島伸（東京都市大学准教授） 中島直人（東京大学准教授） 中村政人（東京藝術大学教授） 中村雄祐（東京大学教授） 濱口博行（東アジアサッカー連盟 CFO・広島経済大学教授） 福島幸宏（東京大学特任准教授） 三船康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会代表） 山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟事務局長） 吉本光宏（㈱ニッセイ基礎研究所研究理事）
監事	北岡タマ子（お茶の水女子大学リサーチ・アドミニストレーター）
事務局長	柳与志夫（東京大学特任教授）

東京文化資源会議 賛助会員（一般・特別・名誉）リスト

（50音順） / 2021年3月31日現在

<一般賛助会員>

1. 朝日信用金庫
2. NTT都市開発(株)
3. 講談社
4. (株)JTB
5. (株)ゼンリン
6. (株)丹青社
7. 凸版印刷(株)
8. (株)日建設計
9. (株)日立製作所
10. (株)松下産業
11. (株)ムラヤマ
12. (株)山下PMC
13. (株)ヤマハミュージックジャパン
14. YKK AP (株)

<特別賛助会員>

1. 住友商事(株)
2. 大成建設(株)
3. (株)大丸松坂屋百貨店
4. (株)竹中工務店
5. (株)電通
6. (株)東京ドーム
7. 日鉄興和不動産(株)
8. 野村不動産(株)
9. (株)博報堂
10. 三井不動産(株)
11. 三菱地所(株)
12. 安田不動産(株)

<名誉賛助会員>

(株)池之端藤井

